ザ・フクオカ 第１号

2019 年度 FIUHW 自己点検・評価資料

福岡国際医療福祉大学

目　　次

1. 大学の建学の精神、教育理念と概要 1

1.1　建学の精神 1
1.2　大学の基本理念 1
1.3　５つの教育目標 1
1.4　所在地 1
1.5　組織図 1
1.6　学年歴 2
1.7　各学科の入学定員と在籍数 2
1.8　入学試験状況 2

２．各職種の現状 6

2.1　理学療法学科 6
2.2　作業療法学科 8
2.3　視能訓練学科 10
2.4　言語聴覚専攻科 12

3. 教育 13

3.1　ポリシー 13
3.2　カリキュラムの内容 15

4. 学生生活 18

4.1　大学生活 18
4.2　奨学金と受賞 18
4.3　クラブとサークル 18

５．委員会 19

5.1　委員会組織と委員 19
5.2　各委員会 20

６．国際交流活動 22

6.1　留学生 22
6.2　国際学術活動 22
6.3　その他の国際活動 22

7. 地域貢献 23

7.1　公開講座 23
7.1　ボランティア 23

8. 教員紹介と業績 24

8.1　学長等紹介 24
8.2　理学療法学科教員紹介 25
8.3　作業療法学科教員紹介 31
8.4　視能訓練学科教員紹介 41
8.5　言語聴覚専攻科員紹介 52

9. 関連施設 54

１．大学の建学の精神、教育理念と概要

1.1　建学の精神

生命の尊厳
生命の平等

1.2　大学の基本理念

福岡国際医療福祉大学は、「生命の尊厳」、「生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、お互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指す。

1.3　5つの教育目標

チームワーク：「チーム医療」「チームケア」に貢献できる専門性の高い人材を養成する。

専　門　性　：保健、医療、福祉分野の高度化・専門化に対応できるとともに、それぞれの分野で指導者となり得る人材を養成する。

国　際　性　：国内はもとより国際社会でも活躍できる、総合的な臨床能力を持った人材を養成する。

人格形成　　：知識や技術に偏向しない、バランスのとれた豊かな人間性とコミュニケーション能力を持った人材を養成する。

実　践　力　：時代のニーズに適合し、地域医療にも貢献できる、実践力のある人材を養成する

1.4　所在地

【医療学部】　　所在地：〒814-0001　福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-40
TEL ： 092-832-1200（代表）　FAX 092-832-1167

1.5　組織図　2019 年４月１日開学

福岡国際医療福祉大学：	学　長	今泉　　勉
	副学長	丸山　仁司
医療学部		
理学療法学科	学科長	柊　　幸伸
作業療法学科	学科長	北島　栄二
視能訓練学科	学科長	吉冨　健志
専攻 言語聴覚専攻科	専攻長	平島ユイ子

1.6　学年歴

表１　2019年度学年暦

	大学行事	学科・専攻関係
4月	3～5日（火ー木）　オリエンテーション 5日（金）　辞令式 6日（土）　入学式 8日（月）　前期授業開始 13日（土）　健康診断	13日（金）フレッシュマンキャンプ
5月	18日（土）　運動会	
6月	9日(土)　教育後援会 26日(水)　教員説明会 28日(金)　大学説明会（高校教員向け）	
7月	20日(土)　オープンキャンパス 25-30日（水-月）　前期試験 28日(日)　オープンキャンパス 30日(火)　前期授業終了、納涼会 31日～6日　試験期間	7日（日）　STセミナー 9日（火）　解剖学実習（PT,OT）
8月	17日(土)　オープンキャンパス 28日(水)　研究倫理研修会	21日（土）　ORTセミナー
9月	12日(水)　公的研究費申請セミナー 14日(土)　AO入試 23日(月)　後期授業開始	15日（日）IUHW学会
10月	9日(水)　コンプライアンス研修 12日(金)　防災訓練 29日(火)　研究倫理、コンプライアンス（フォローアップ） 30日(水)　学内研究会（視能訓練学科吉富学科長）	
11月	2日(土)　学園祭 9日(土)　高校推薦入試 12日(火)　防災訓練 20日(水)　学内研究会（理学療法学科柊学科長）	16日(土)　アジアリハビリフォーラム
12月	7日（土）　球技大会 17日(火)　忘年会 15日(土)　入試（特待生） 18日(水)　学内研究会（作業療法学科北島学科長） 27日(水)　休暇開始	
1月	6日(月)　授業再開 20日(月)　後期授業終了 21～27日　後期試験 19・20日（土・日）　センター入試 28-31日（月-木）　一般入試	
2月	1,2日（土日）　入試（一般前期、社会人、留学生） 6～10日　追試試験 12日(水)　ハラスメント講習会 19日(水)　学内研究会（言語聴覚専攻科平島専攻長） 23日(日)　国家試験	15,16日（土日）指導者研修会（PT）
3月	3日(火)　一般入試後期	

１.７　各学科の入学定員

福岡国際医療福祉大学は，2019 年４月、医療学部の１学部３学科（理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科）と１専攻（言語聴覚専攻）で開設した。
定員は各学科 40 名、専攻科は 40 名である（表 2)。

表２　入学定員と合計数

学部	学科・専攻	１学年定員	合計数	開設年	年限
医療学部	理学療法学科	40	160	2019年	4年制
	作業療法学科	40	160	2019年	4年制
	視能訓練学科	40	160	2019年	4年制
専攻科	言語聴覚専攻科	40	80	2019年	2年制

１.８　入試状況と在籍状況

本学は、日々進化する保健・医療・福祉の分野において、それぞれの需要に対応できる医療専門職を養成し、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指し、それを基本理念としています。そのため本学では、豊富なグループ関連施設などと連携し、入学初期より実習を行うことで、「チーム医療・チームケア」の考え方やスキルを身につけ、また、海外研修を必修とすることで､国際的な視野や多言語によるコミュニケーション能力を育むカリキュラムを導入しています。それにより、国際的に活躍できる医療専門職を養成し、また、それぞれの分野において指導者となり得る人材を養成することで、「共に生きる社会」の実現に尽くすものです。
以下に、本学のアドミッション・ポリシーを示します。

1)保健・医療・福祉の分野で活躍したいという目的意識が明確であり、何事にも自主的に取り組むことができる者
2)基本的倫理観を持つ者
3)各専門知識を学び応用するために必要な基礎学力を有している者
4)海外の保健・医療・福祉に興味を持つ者

2019 年の入試は、高校推薦、一般前期、一般後期試験を実施した。2020 年入試は AO 入試、大学センター入試を導入した。一般前期入試は大学のみではなく、地方会場として、山口、大分、長崎、鹿児島で実施している。、高校推薦には公募と指定校推薦を実施している。各募集状況、合否状況は　表 3 に示す。

また、現在の在学数および学籍異動について表 4 に示す。退学が理学療法学科 2 名、言語聴覚専攻科 2 名視能訓練学科１名であった。

学生の出身都道府県は表 5 に示す。入学者の 65.6%が福岡県、長崎県 5.7%、山口、佐賀、大分、鹿児島の順である。九州地区出身者は全体の 96.5%である。

表 3　2019、2020 年度入学受験状況

医療学部		AO入試	特別選抜	高校推薦	一般前期	一般後期	ｾﾝﾀｰ利用	全入試
理学療法	2019 志願	0	3	25	148	8	0	184
	2019 合格	0	1	14	52	1	0	68
	2020 志願	29	0	28	138	10	55	260
	2020 合格	3	0	12	42	1	18	76
作業療法	2019 志願	0	0	14	55	0	0	69
	2019 合格	0	0	14	37	0	0	51
	2020 志願	16	1	21	68	3	30	139
	2020 合格	4	1	17	29	1	7	59
視能訓練	2019 志願	0	0	16	48	1	0	65
	2019 合格	0	0	16	28	1	0	45
	2020 志願	12	0	16	55	1	17	101
	2020 合格	5	0	16	29	1	10	61

言語聴覚専攻科		AO入試	一般	入学者選考				全入試
				Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期		
言語聴覚	2019 志願	16	10					26
	2019 合格	15	10					25
	2020 志願			10	12	5		27
	2020 合格			10	12	5		27

表 4　在籍数と学籍異動

		入学者数	退学者数	休学者数	留年者数	在籍者数
理学療法	2019 入学	49	2			47
	2020 入学	44				44
作業療法	2019 入学	47				47
	2020 入学	44				44
視能訓練	2019 入学	40	1			39
	2020 入学	46				46
言語聴覚	2019 入学	23	2			21
	2020 入学	26				26
総計		319	5	0	0	314

表５　学生の出身県別一覧

	理学療法		作業療法		視能訓練		言語聴覚		
県名	2019 1期	2020 2期生	2019 1期	2020 2期生	2019 1期	2020 2期生	2019 1期	2020 2期生	**総計**
北海道	0	0	0	0	0	0	0	1	**1**
青森県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
宮城県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
福島県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
茨城県	0	0	0	0	0	0	1	0	**1**
栃木県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
群馬県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
埼玉県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
千葉県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
東京都	0	0	0	0	0	0	1	0	**1**
神奈川県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
新潟県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
富山県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
石川県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
福井県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
山梨県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
長野県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
岐阜県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
静岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
愛知県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
三重県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
滋賀県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
京都府	0	0	0	0	0	0	0	1	**1**
大阪府	0	0	0	0	0	0	1	1	**2**
兵庫県	0	0	0	0	0	0	1	0	**1**
奈良県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
和歌山県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
鳥取県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
島根県	0	1	0	1	0	0	1	0	**3**
岡山県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
広島県	0	0	0	1	0	0	0	0	**1**
山口県	3	3	3	0	3	2	0	2	**16**
徳島県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
香川県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
愛媛県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
高知県	0	0	0	0	0	0	0	0	**0**
福岡県	27	36	28	32	31	23	16	13	**206**
佐賀県	2	1	0	4	3	4	0	1	**15**
長崎県	3	4	3	3	3	1	1	0	**18**
熊本県	1	0	1	1	0	3	1	1	**8**
大分県	3	1	5	1	2	2	0	0	**14**
宮崎県	3	0	2	1	0	2	1	0	**9**
鹿児島県	1	1	1	3	4	1	1	0	**12**
沖縄県	1	0	0	0	0	0	0	0	**1**
海外	0	0	0	1	0	1	1	1	**4**
合　計	44	47	43	48	46	39	26	21	314

2. 各職種の現状

2.1　理学療法士

1) 理学療法の定義

理学療法士は1965年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「理学療法」とは、「身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行なわせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう。」と定義されている。

世界理学療法連盟では以下のように定義されている（1982年)。

理学療法は身体的治療の技術及び科学であり、運動療法、教育指導、温熱、寒冷、光線、水、マッサージおよび電気を治療手段とする。治療目的のなかに痛みの緩和、循環の増加、障害(disability)の予防と改善、力、可動性および協調性の最大回復がある。

理学療法は、神経支配と筋力の障害(impairment)程度を決定するための電気的・徒手的テスト、機能的能力を決定するためのテスト、関節可動域の測定、肺活量 の測定を医師の診断補助とし、また経過を記録する目的として行うことを含む。

理学療法士は障害(disability)を予防し病人および障害者(handicapped)を社会復帰(rehabilitate)させるために働くとともに、予防医学においても活動的であり、また臨床研究も行う。

2) 養成校の変遷

1963年に国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979年、3年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992に4年制が広島大学医学部に設立された。また、理学療法学分野の大学院修士および博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。2020年では大学が118校、3年制短大が4校、専門学校が144校である（表6)。

3) 理学療法士の現状

2020年度の理学療法士の国家試験合格者の累計は182904名である。毎年10000名程度の増加がみられる（表6)。

日本理学療法士協会は理学療法士有資格者の職業団体である。現在約12万名の会員で組織されている。

世界理学療法連盟（WCPT）は106各国、40万名の組織団体である。最近は２年に一回、各国で学術大会を開催している。

4) 国家試験合格率の変遷

理学療法士の国家試験は、作業療法士と同時に行われている。年１回、問題形式は五者択一または五者択二である。問題数は200問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、理学療法などである。受験者数と合格率について表6に示す。最近の合格率は80%台である。

表６　理学療法士国家試験合格者数、養成校数などの変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格総計	会員数	組織率	入学定員	卒業者数	四年制	短期	専門	合計
										大学数	大学	学校	
1963	昭和38年							20	0	0	0	1	1
1963	昭和39年							40	0	0	0	3	3
1965	昭和40年							40	0	0	0	3	3
1966	昭和41年	1,217	183	15.0	183	110	60.1	75	20	0	0	5	5
1967	昭和42年	1,432	310	21.6	493	229	46.5	75	40	0	0	5	5
1968	昭和43年	1,211	228	18.8	721	282	39.1	95	40	0	0	6	6
1969	昭和44年	1,167	167	14.3	888	502	56.5	115	75	0	0	7	7
1970	昭和45年	1,260	224	17.8	1,112	592	53.2	135	75	0	0	8	8
1971	昭和46年	1,400	136	9.7	1,248	692	55.4	135	95	0	0	8	8
1972	昭和47年	1,000	128	12.8	1,376	860	62.5	135	115	0	0	8	8
1973	昭和48年	1,034	138	13.3	1,514	1,031	68.1	185	135	0	0	10	10
1974	昭和49年	1,014	212	20.9	1,726	1,127	65.3	205	135	0	0	11	11
1975	昭和50年	158	125	79.1	1,851	1,285	69.4	205	135	0	0	11	11
1976	昭和51年	168	98	58.3	1,949	1,422	73.0	205	155	0	0	11	11
1977	昭和52年	264	184	69.7	2,133	1,538	72.1	245	205	0	0	13	13
1978	昭和53年	253	168	66.4	2,301	1,686	73.3	275	205	0	0	14	14
1979	昭和54年	288	216	75.0	2,517	1,839	73.1	395	185	0	1	18	19
1980	昭和55年	329	256	77.8	2,773	2,038	73.5	455	245	0	2	20	22
1981	昭和56年	351	267	76.1	3,040	2,293	75.4	580	275	0	3	24	27
1982	昭和57年	470	419	89.1	3,459	2,472	71.5	760	395	0	5	29	34
1983	昭和58年	544	449	82.5	3,908	2,836	72.6	880	455	0	7	31	38
1984	昭和59年	658	618	93.9	4,526	3,810	84.2	960	580	0	9	33	42
1985	昭和60年	771	729	94.6	5,255	4,468	85.0	980	760	0	10	33	43
1986	昭和61年	914	859	94.0	6,114	5,005	81.9	1,010	880	0	12	33	44
1987	昭和62年	974	925	95.0	7,039	5,886	83.6	1,010	960	0	12	32	44
1988	昭和63年	1,004	948	94.4	7,987	6,770	84.8	1,010	980	0	12	32	44
1989	平成元年	1,064	980	92.1	8,967	7,966	88.8	1,035	1,010	0	13	31	44
1990	平成２年	1,103	1,057	95.8	10,024	8,960	89.4	1,115	1,010	0	14	34	48
1991	平成３年	1,049	977	93.1	11,001	9,898	90.0	1,125	1,010	0	15	34	49
1992	平成４年	1,087	1,029	94.7	12,030	10,874	90.4	1,585	1,035	1	15	38	54
1993	平成５年	1,109	1,069	96.4	13,099	11,892	90.8	1,815	1,115	2	14	43	59
1994	平成６年	1,196	1,086	90.8	14,185	12,949	91.3	2,000	1,125	3	15	46	64
1995	平成７年	1,454	1,422	97.8	15,607	14,150	90.7	2,640	1,430	8	15	57	80
1996	平成８年	1,768	1,688	95.5	17,295	15,699	90.8	2,970	1,745	9	14	66	89
1997	平成９年	1,889	1,797	95.1	19,092	17,315	90.7	3,290	1,930	10	15	72	97
1998	平成10年	2,286	2,215	96.9	21,307	19,206	90.1	3,520	2,220	12	13	79	104
1999	平成11年	2,744	2,566	93.5	23,873	21,406	89.7	3,625	2,710	16	12	79	107
2000	平成12年	3,196	3,048	95.4	26,921	24,027	89.3	4,230	3,130	18	10	90	118
2001	平成13年	3,240	3,140	96.9	30,061	26,910	89.5	4,903	3,200	20	10	101	131
2002	平成14年	3,503	3,354	95.7	33,415	29,845	89.3	6,156	3,530	25	9	114	148
2003	平成15年	3,686	3,629	98.5	37,044	33,038	89.2	7,182	3,695	31	6	126	163
2004	平成16年	4,289	4,199	97.9	41,243	36,693	89.0	8,027	4,491	36	4	132	172
2005	平成17年	5,102	4,843	94.9	46,086	40,869	88.7	8,987	5,253	42	2	139	183
2006	平成18年	6,155	6,002	97.5	52,088	45,870	88.1	10,267	6,509	55	2	139	196
2007	平成19年	7,036	6,559	93.2	58,647	51,380	87.6	11,646	7,250	67	2	149	218
2008	平成20年	7,997	6,924	86.6	65,571	57,148	87.2	12,524	8,162	70	3	158	231
2009	平成21年	9,119	8,291	90.9	73,862	63,519	86.0	13,279	8,818	76	5	165	246
2010	平成22年	9,835	9,112	92.6	82,974	70,758	85.3	13,339	9,800	82	5	162	249
2011	平成23年	10,416	7,736	74.3	90,710	76,639	84.5	13,274	10,440	86	5	156	247
2012	平成24年	11,956	9,850	82.4	100,560	83,939	83.5	13,265	10,701	90	5	156	251
2013	平成25年	11,391	10,104	88.7	110,664	91,476	82.7	13,460	11,064	93	6	149	248
2014	平成26年	11,129	9,315	83.7	119,979	95,721	79.8	13,390	11,440	95	6	148	249
2015	平成27年	12,035	9,952	82.7	129,931	102,767	79.1	13,435	12,081	95	6	148	249
2016	平成28年	12,515	9,272	74.1	139,203	106,670	76.6	13,860	11,644	102	6	150	258
2017	平成29年	13,719	12,388	90.3	151,591	115,825	76.4	14,006	12,173	105	6	152	263
2018	平成30年	12,148	9,885	81.4	161,476	119,525	74.0	14,051	11,704	106	6	149	261
2019	平成31年	12,605	10,809	85.8	172,285			14,387		112	6	148	266
2020	令和２年	12,283	10,608	86.4	182,893					118	4	144	266

2.2　作業療法士

1) 作業療法の定義

作業療法士は 1965 年に公布された理学療法士及び作業療法士法により制定された。その法律の中で「作業療法」とは、身体又は精神に障害のある者に対し、主としてその応用的動作能力又は社会的適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行なわせることをいうと定義されている。

しかし，現行の理学療法士及び作業療法士法(1965 年)や日本作業療法士協会が 1985 年に定めた作業療法 の定義では，医療領域における実践イメージと結びつきやすく，多様化する 今日の作業療法の現状を適切に表現するには定義を改定する必要が生じた。そこで日本作業療法士協会は，2018 年 5 月，以下に示すとおり，協会が示す作業療法の定義文を改訂した.

「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。」

2) 養成校の変遷

1963 年に国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院で開始された。その後、1979 年、3 年制短期大学が金沢大学医療技術短期大学部で設立、1992 年に 4 年制が広島大学医学部に設立された。また、作業療法分野の大学院修士および博士課程が設立され、多くの学位取得者がみられるようになった。令和 2 年では大学が 83 校、短期大学 4 校、、専門学校が 108 校、計 195 校である。1998 年より養成校が急増してきた。これは、ゴールドプランによる高齢者の増加に伴い医療福祉職の需要が多くなったことにより生じた（表7）。

3) 作業療法士の現状

2020 年の国家試験の合格者累計は 99270 名である。その作業療法士数の変遷を表 7 に示す。
作業療法の対象は，身体，精神，発達，高齢期の障害や，環境への不適応により， 日々の作業に困難が生じている，またはそれが予測される人や集団である。.
また，作業療法士が関わる領域は，医療，保健，福祉，教育，職業，その他に大別でき，現状では医療機関で働く作業療法士の数が最も多い．しかし，近年は高齢化社会への対応である介護領域で働く作業療法士の数が増加している．また，国が目指している「共生社会の実現」への対応として，障害福祉， 教育，職業の領域で働く作業療法士の数も少しずつ増えてきている.

4) 国家試験

作業療法士の国家試験は、理学療法士と同時に行われている。年 1 回、問題形式は五者択一または五者択二である。問題数は 200 問であり、問題範囲は、基礎医学、臨床医学、作業療法などである。

受験者数と合格率について表 7 に示す。最近の合格率は 70-80％台であり、年によって変化が大きい。

表７　作業療法士の国家試験合格者および会員数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	合格総数	協会会員数	組織率
1966	昭和41年	60	20	33.3	22	18	81.8
1967	昭和42年	390	50	12.8	72	54	75.0
1968	昭和43年	301	60	19.9	132	103	78.0
1969	昭和44年	246	90	36.6	222	150	67.6
1970	昭和45年	271	88	32.5	311	200	64.3
1971	昭和46年	312	47	15.1	360	263	73.1
1972	昭和47年	139	40	28.8	400	296	74.0
1973	昭和48年	87	35	40.2	436	323	74.1
1974	昭和49年	148	70	47.3	506	357	70.6
1975	昭和50年	59	52	88.1	558	383	68.6
1976	昭和51年	72	62	86.1	621	427	68.8
1977	昭和52年	94	80	85.1	702	487	69.4
1978	昭和53年	86	75	87.2	777	555	71.4
1979	昭和54年	88	80	90.9	857	625	72.9
1980	昭和55年	129	123	95.3	980	752	76.7
1981	昭和56年	126	108	85.7	1,088	842	77.4
1982	昭和57年	175	166	94.9	1,255	994	79.2
1983	昭和58年	215	189	87.9	1,445	1,022	70.7
1984	昭和59年	342	305	89.2	1,750	1,167	66.7
1985	昭和60年	405	389	96.0	2,140	1,386	64.8
1986	昭和61年	459	439	95.6	2,581	2,046	79.3
1987	昭和62年	493	427	86.6	3,006	2,414	80.3
1988	昭和63年	572	518	90.6	3,525	2,870	81.4
1989	平成元年	604	556	92.1	4,081	3,387	83.0
1990	平成２年	629	611	97.1	4,692	3,909	83.3
1991	平成３年	612	593	96.9	5,287	4,391	83.1
1992	平成４年	554	540	97.5	5,827	4,901	84.1
1993	平成５年	638	573	89.8	6,401	5,457	85.3
1994	平成６年	763	627	82.2	7,028	6,027	85.8
1995	平成７年	888	680	76.6	7,708	6,636	86.1
1996	平成８年	1,115	1,040	93.3	8,748	7,488	85.6
1997	平成９年	1,152	1,059	91.9	9,808	8,469	86.3
1998	平成10年	1,262	1,226	97.1	11,035	9,570	86.7
1999	平成11年	1,753	1,589	90.6	12,626	11,016	87.2
2000	平成12年	2,312	2,254	97.5	14,880	13,061	87.8
2001	平成13年	2,477	2,347	94.8	17,229	15,193	88.2
2002	平成14年	2,854	2,587	90.6	19,816	17,458	88.1
2003	平成15年	3,205	2,937	91.6	22,755	20,051	88.1
2004	平成16年	3,469	3,313	95.5	26,069	23,151	88.8
2005	平成17年	3,893	3,442	88.4	29,511	26,131	88.5
2006	平成18年	4,571	4,185	91.6	33,696	29,523	87.6
2007	平成19年	5,131	4,400	85.8	38,097	32,948	86.5
2008	平成20年	5,783	4,257	73.6	42,354	35,961	84.9
2009	平成21年	6,675	5,405	81.0	47,759	39,241	82.2
2010	平成22年	6,486	5,317	82.0	53,076	42,348	79.8
2011	平成23年	5,794	4,116	71.0	57,192	44,958	78.6
2012	平成24年	5,821	4,637	79.7	61,829	46,092	74.5
2013	平成25年	5,279	4,079	77.3	65,908	48,008	72.8
2014	平成26年	5,474	4,740	86.6	70,648	49,841	70.5
2015	平成27年	5,324	4,125	77.5	74,773	50,494	67.5
2016	平成28年	5,004	4,711	94.1	79,484	53,045	66.7
2017	平成29年	5,983	5,007	83.7	84,491	55,904	66.2
2018	平成30年	6,164	4,700	76.2	89,191	58,234	65.3
2019	平成31年	6,358	4,531	71.3	93,722	62,219	66.4
2020	令和２年	6,352	5,548	87.3	99,270		

2.3　視能訓練士

1) 視能訓練士の定義

1971 年に視能訓練士法が公布され、視能訓練士が制定された。その法律の中で、両眼視機能に障害のある者に対するその両眼視機能の回復のための矯正訓練及びこれに必要な検査を行なうと定義された。

視能訓練士法制定当時は視能訓練士の業務は小児の斜視や弱視の視機能の検査や視能矯正に限定されていた。しかし、その後、高齢化に伴う眼科領域の疾病構造の変化や、検査機器の進歩による眼科検査の多様化などを受け、1993 年の関係法令成立により、医師の指示の下、人体に影響を及ぼす程度が高い一部の検査を除き、臨床で一般的に行われている眼科諸検査全般を行うことができるようになった。

2) 養成校の変遷

1970 年 4 月に東京都世田谷区にあった国立小児病院構内にわが国初の視能訓練士の養成施設が厚生省立として設置開校された。この国立小児病院附属視能訓練学院は短期大学卒業以上の女子を入学資格とし、修業年限 1 年、定員は 30 名であった。5 年遅れて同様の養成校（国立大阪病院附属視能訓練学院）が国立大阪病院構内に付設された。その後、1977 年に新潟医療技術専門学校が高校卒業以上を対象とした私立の 3 年制の専門学校として誕生した。養成校が 3 校のみという時代が長く続いたが、1988 年岐阜視能訓練専門学院（現、平成医療短期大学）の開設を皮切りに多くの養成校が誕生することになる。その一方で、創成期を支えた国立の養成校 2 校はその役目を終え閉校することになった。最初の視能訓練士養成大学は 1991 年に岡山県倉敷市に誕生した川崎医療福祉大学である。同大学は 1996 年には大学院を設置した。今では視能訓練士にも修士、博士といった学位不取得者を見受けるようになった。現在は、大学が 10 校、専門学校が 16 校、短期大学が１校、計 27 校である。規制緩和の影響もあり養成の場は徐々に大学にシフトしつつあるが、専門学校の人気も根強い。専門学校は 3 年制の他にも、高度専門士を取得できる 4 年制や、短期大学以上を卒業し規定の単位を取得していれば入学が可能な 1 年制の専門学校も存在する。

3) 視能訓練士の現状

2020 年の国家試験の合格者累計は 17,003 名である。毎年約 800 名が増加している。視能訓練士数の変遷を表 8 に示す。

斜視、弱視の視能訓練という専門分野のみを業務としていた創成期に対して、現在は、視能訓練や眼科検査以外にも、3 歳児健診や成人健診などでの視機能スクリーニング、低視力者のリハビリテーション指導など、幅広い業務を担当するようになり、業務は飛躍的に拡大している。さらに近年では、高齢者や発達障碍児が抱える視覚の問題に対する包括的なケアを求める社会のニーズも増大している。

4) 国家試験

視能訓練士の国家試験は、年 1 回、東京と大阪の 2 会場で行われる。出題分野は、基礎医学大要、基礎視能矯正学、視能検査学、視能障害学、および視能訓練学である。問題形式は五者択一または五者択二である。問題数は 150 問であり、合格基準は 60%である。最近の合格率は 95%以上である。

表８　視能訓練士の国家試験合格者の変遷

国試回数	西暦	和暦	受験者数	合格者数	合格率	累積ORT数	協会会員数
1回	1971年	昭和46年	125	121	96.8	121	
2回	1972年	昭和47年	70	49	70.0	170	
3回	1973年	昭和48年	92	68	73.9	238	
4回	1974年	昭和49年	118	96	81.4	334	
5回	1975年	昭和50年	104	62	59.6	396	
6回	1976年	昭和51年	115	86	74.8	482	
7回	1977年	昭和52年	58	58	100.0	540	
8回	1978年	昭和53年	59	57	96.6	597	
9回	1979年	昭和54年	62	62	100.0	659	
10回	1980年	昭和55年	92	90	97.8	749	
11回	1981年	昭和56年	101	94	93.1	843	
12回	1982年	昭和57年	110	102	96.3	945	
13回	1983年	昭和58年	108	104	96.3	1,049	
14回	1984年	昭和59年	103	100	99.1	1,149	
15回	1985年	昭和60年	111	110	99.1	1,259	
16回	1986年	昭和61年	111	110	99.1	1,369	
17回	1987年	昭和62年	115	115	100.0	1,484	
18回	1988年	昭和63年	107	107	100.0	1,591	1,203
19回	1989年	平成元年	111	104	93.7	1,695	1,280
20回	1990年	平成2年	122	118	96.7	1,813	1,304
21回	1991年	平成3年	124	122	98.4	1,935	1,403
22回	1992年	平成4年	131	127	96.9	2,062	1,490
23回	1993年	平成5年	144	142	98.6	2,204	1,574
24回	1994年	平成6年	211	202	95.7	2,406	1,747
25回	1995年	平成7年	283	269	95.1	2,675	1,957
26回	1996年	平成8年	317	307	96.8	2,982	2,033
27回	1997年	平成9年	315	312	99.1	3,294	2,258
28回	1998年	平成10年	327	323	99.1	3,617	2,454
29回	1999年	平成11年	335	318	94.9	3,935	2,688
30回	2000年	平成12年	340	332	97.6	4,267	3,008
31回	2001年	平成13年	362	343	94.8	4,610	3,215
32回	2002年	平成14年	343	333	97.1	4,943	3,403
33回	2003年	平成15年	440	415	94.3	5,358	3,491
34回	2004年	平成16年	503	484	96.2	5,842	3,724
35回	2005年	平成17年	514	494	96.1	6,336	3,987
36回	2006年	平成18年	627	612	97.6	6,948	4,021
37回	2007年	平成19年	573	546	95.3	7,494	4,433
38回	2008年	平成20年	683	648	94.9	8,142	4,618
39回	2009年	平成21年	675	624	92.4	8,766	5,182
40回	2010年	平成22年	685	585	85.4	9,351	5,131
41回	2011年	平成23年	734	670	91.3	10,021	5,433
42回	2012年	平成24年	720	665	92.4	10,686	5,641
43回	2013年	平成25年	743	546	73.5	11,232	5,820
44回	2014年	平成26年	953	863	90.6	12,095	5,897
45回	2015年	平成27年	886	788	88.9	12,883	6,046
46回	2016年	平成28年	886	833	94.0	13,716	6,259
47回	2017年	平成29年	832	775	93.1	14,491	6,388
48回	2018年	平成30年	910	889	97.7	15,380	6,489
49回	2019年	令和元年	858	819	98.2	16,199	6,621
50回	2020年	令和2年	837	804	96.1	17,003	6,669

2.4　言語聴覚士

1) 言語聴覚士の定義

1997 年に言語聴覚士法が公布され、言語聴覚士が制定された。その法律の中で、音声機能、言語機能又は聴覚に障害のある者についてその機能の維持向上を図るため、言語訓練その他の訓練、これに必要な検査及び助言、指導その他の援助を行うと定義されている。

2) 養成校の変遷

2020 年の言語聴覚士の養成校は大学が 26 校、専門学校が 25 校、２年制養成が 26 校である。２年課程は大学卒業者が入学条件となっている。

3) 言語聴覚士の変遷

2020 年の国家試験の合格者累計は 34489 名である。毎年約 1700 名が増加している。その言語聴覚士数の変遷を表 9 に示す。

4) 国家試験

言語聴覚士の国家試験は、年 1 回、問題形式は五者択一または五者択二である。問題数は 150 問であり、合格基準は 60%である。最近の合格率は 60 後半から 70%台である。

表 9　言語聴覚士の国家試験合格者数の変遷

		受験者数	合格者数	合格率	累積数	協会会員数
1999	平成11年	4,556	4,003	0.9	4,003	
2000	平成12年	1,565	664	0.42	4,667	2,826
2001	平成13年	1,908	936	0.49	5,603	3,269
2002	平成14年	2,113	1,137	0.54	6,740	3,715
2003	平成15年	2,447	1,027	0.42	7,767	4,514
2004	平成16年	1,658	1,130	0.68	8,897	4,948
2005	平成17年	1,812	1,012	0.56	9,909	5,797
2006	平成18年	2,226	1,389	0.62	11,298	6,691
2007	平成19年	2,323	1,266	0.54	12,564	7,421
2008	平成20年	2,574	1,788	0.69	14,352	8,349
2009	平成21年	2,347	1,344	0.57	15,696	
2010	平成22年	2,498	1,619	0.65	17,315	
2011	平成23年	2,374	1,645	0.69	18,960	
2012	平成24年	2,263	1,413	0.62	20,373	
2013	平成25年	2,381	1,621	0.68	21,994	
2014	平成26年	2,401	1,779	0.74	23,773	
2015	平成27年	2,506	1,776	0.71	25,549	
2016	平成28年	2,553	1,725	0.68	27,274	
2017	平成29年	2,571	1,951	0.76	29,225	
2018	平成30年	2,531	2,008	0.79	31,233	17,890
2019	平成31年	2,367	1,630	0.69	32,863	
2020	令和２年	2,486	1,626	0.65	34,489	

3. 教育内容

3.1　大学のポリシー

3.1.1　カリキュラム・ポリシー

本学では、基本理念・教育目標を実現するため、調和のとれた人格形成に必要な教養科目を基礎におき、また専門分野に関する科目については体系的に構成するカリキュラムとなっている。

以下に本学のカリキュラム・ポリシーおよびカリキュラム体系を示す。

①総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた、豊かな人間性を養う。

②専門基礎科目：人体の構造や、疾病に関わる基礎的な知識を学修し、「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する。

③専門科目　　：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する。

(1)総合教育科目：幅広い教養や視野、国際的なセンスを備えた豊かな人間性を養うともに、専門教育を受ける上での基本的な知識を修得する科目である。総合教育科目は人間系、社会系、自然・情報系、保健体育系、総合系、外国語系に区分される。

総合教育科目の特色は、

〇4 年間にわたり学べる機会を設けている

〇原則として全学科共通の開講科目である

〇外国語系科目は海外研修を念頭に置いた実用性を重視した内容である

(2)専門基礎科目：「チーム医療・チームケア」に欠かせないコミュニケーション能力、関連職種に関する知識と連携能力および課題解決能力を身につけた専門職を養成する科目である。

専門科目（高度な専門的知識・技術）を学ぶための前提となる知識、技術を学ぶとともに、医療関連専門職として共通して修得すべき科目であり、原則として全学科共通の開講科目である。

(3)専門科目　　：保健、医療、福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術を身につけ、専門職として社会に貢献できる人材を養成する科目であり、各学科単独の開講科目である。

3.1.2 ディプロマ・ポリシー

本学は、保健、医療、福祉の分野において、高い知識と優れた技能、そして科学的・創造的探究心と豊かな人間性を備えた、時代のニーズや地域医療に貢献できる有為な専門職を養成することで、基本理念にある「共に生きる社会」の実現を目指すものである。

そのため、総合教育と専門教育に重点を置いた体系的なカリキュラムを構築し、学生へ前もって成績評価基準を明示し、「GPA (Grade Point Average)」を用いた厳格な成績評価を行う。卒業要件を満たす所定の単位を修得したものに対して、卒業を認定し、学位を授与する。

本学で卒業までに身につけるべき内容は、以下のとおりである。

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を尊び、一人の人間として豊かな心を身につけ、時代のニーズや地域で起こっている事象への関心を深め、社会へ貢献するために専門職として必要な高い専門的能力や技術力、実践力を身につける。

②他職種を理解し、職種を超えて問題を探求する姿勢を身につけ、基礎的および専門的な学力を養い、保健、医療、福祉の分野において指導者・研究者となり得る基本的能力を身につける。

③国際社会で活躍するにあたって必要な能力を育むため、知識と技能、語学力を身につける。

3.1.3　理学療法学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。

②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者の健康と体力の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。

③理学療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。

④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②理学療法士として医療分野における他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、健康と体力の維持・向上に貢献できる。

③基礎的および専門的な知識や技術に基づいた理学療法を実践できるとともに、理学療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.4　作業療法学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。

②人の心と生活を支えるために必要な専門知識と技術を兼ね備え、チーム医療・チームケアが実践できる人材を育成するための授業科目を開設する。

③科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的および専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。

④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②作業療法士としての専門的知識、技術を有し、他職種と協働してチーム医療・チームケアを実践することができ、社会的責任をもって人の心と生活を支援できる。

③向上心、探究心をもって、科学的・創造的思考を身につけ作業療法を実践でき、作業療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.5　視能訓練学科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。

②眼科医療において必要とされる専門的知識と技術を学修し、さらに他職種と円滑なコミュニケーションを図りながら医療チームの一員として活躍でき、目の健康と生活の質の向上に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。

③ 視覚分野における学術的課題を自ら見出し、科学的根拠に基づいて論理的に分析できる人材を育成するための授業科目を開設する。

④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②視能訓練士として必要な知識と技術を有し、さらに他職種と連携してチーム医療を推進することができ、目の健康と生活の質の向上に貢献できる。

③視覚分野における学術的課題を多角的視点から思考し、収集した情報を科学的根拠に基づいて論理的に分析し解決することができ、視能訓練の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.1.6　言語聴覚専攻科のポリシー

カリキュラム・ポリシー

①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を基に言語聴覚療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。

②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者のコミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。

③国際的な視点に立ち、言語聴覚療法を学修できる授業を実施する。

ディプロマ・ポリシー

①基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。

②他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、コミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる。

③言語聴覚療法を実践できるとともに、指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。

④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

3.2　カリキュラムの内容

カリキュラムは，総合科目，語学科目，専門基礎科目，専門科目に分かれている．一般的には，総合科目・語学科目は1･2年次に多く履修する.総合科目や専門科目の一部は学科共通科目で,学科間の交流もできる．1年次より一部専門科目を履修し，より早い時期から理学療法を理解できる．1年生の科目には，基礎医学である解剖学や生理学，運動学などがあり身体の基本的な仕組みや動きを学び，2 年生は臨床医学である整形外科や神経内科，一般内科など，より細分化された分野を勉強する．3 年生になると実習が多くなり，理学療法専門科目を中心に，より実践に近い形で勉強する機会が増える．4 年生では総合臨床実習と卒業研究，国家試験のための模擬試験等を行い，いよいよ理学療法士としての羽ばたく準備を整える．

表10には系統図を示す。

総合科目

(1)人文科学　：文学論，演劇論，心理学，哲学，コミュニケーション概論，人間学，歴史学，倫理学，文化人類学，教育学

(2)社会科学系：法学，社会学，経済学，アジア諸国の経済・社会・文化，国際関係論，国際経済論，国際医療福祉論，地球環境論，組織運営管理論，海外保健福祉事情

(3)自然科学系：総合講義，統計学，疫学・保健医療統計学，数学，物理学，化学，生物学，情報処理，生命倫理，医学／医療史，人間工学

(4)語学科目　：英語，スペイン語，中国語，フランス語，ドイツ語，韓国語

(5)その他　　：健康科学実践，健康科学理論　　＊英語以外はすべて選択科目

表 10　各学科の教育カリキュラムの系統図

理学療法学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者の健康と体力の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
③理学療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験をすることができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②理学療法士として医療分野における他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、健康と体力の維持・向上に貢献できる。
③基礎的及び専門的な知識や技術に基づいた理学療法を実践できるとともに、理学療法の分野において指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏｰﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、コミュニケーション概論								◎			
	社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、				社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論							◎
	自然・情報系	生命倫理 統計学、医療とICT、生物学、物理学、人間工学								◎			
											○		
	保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
	総合系	大学入門講座								○			
	外国語系	医学英語Ⅰ　医学英語Ⅱ 韓国語、中国語、英語（基礎）、英語（応用）、英会話											◎
専門基礎【人体の構造と機能及び心身の発達】人体の構造と機能及び心身の発達に関する系統だてられた知識を育成する。		解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 解剖学実習 人間発達学 運動学Ⅰ	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 運動学Ⅱ	運動生理学 運動学実習							◎	○	
【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】健康、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を育成する。		臨床医学概論	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	内科学Ⅰ、神経学Ⅰ 整形外科学Ⅰ 精神医学Ⅰ 臨床心理学概論 公衆衛生学、精神医学Ⅱ、救急医学、薬理学、栄養学、カウンセリング論、小児科学	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 整形外科学Ⅱ 老年学		医用画像診断学				◎	○	
【保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念】保健医療福祉の推進のために理学療法士が果たすべき役割について学ぶとともに、地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 ケアマネジメント論　保健医療福祉制度論		関連職種連携論		リスクマネジメント論 関連職種連携ワーク					◎	○	
専門【基礎理学療法学】理学療法とリハビリテーションの枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法を構築できる能力とともに、職業倫理を高める態度を育成する。		理学療法概論 バイオメカニクス	運動解剖学	動作分析学			リﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ管理論 病態運動学 卒業研究Ⅰ（研究計画の立案）		卒業研究Ⅱ （研究の実践）		○	◎	
【理学療法評価学】理学療法における評価の枠組みを理解し、心身の機能・構造や日常生活活動の評価に関する知識と技術を育成する。			理学療法評価学	理学療法診断学Ⅰ（基礎） 理学療法診断学Ⅱ（神経診断学）	理学療法診断学Ⅲ（疾患別評価） 理学療法診断学Ⅳ（電気診断学）		クリニカルリーズニング				○	◎	
【理学療法治療学】障害の予防と治療の観点から、種々の障害に必要な知識と技術を育成する。			PTスキルⅠ演習 （キャリアデザイン）	物理療法Ⅰ 運動療法学総論 癌のリハビリテーション	PTスキルⅡ演習 （検査・測定） 物理療法Ⅱ 生活技術学 小児理学療法学	PTスキルⅢ演習 （障害理解） 理学療法治療学総論 運動系理学療法学Ⅰ 神経系理学療法学Ⅰ 呼吸理学療法学	PTスキルⅣ演習 （専門知識の確認） 運動系理学療法学Ⅱ 神経系理学療法学Ⅱ 代謝系理学療法学 循環理学療法学 理学療法技術学 先端ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科学 高次脳機能障害学		理学療法特論Ⅰ（基礎） 理学療法特論Ⅱ（応用）	○	◎	
【地域理学療法学】患者及び障害者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を育成する。				装具学 生活環境学 地域理学療法学 障害者スポーツ概論	義肢学	福祉住環境論 産科理学療法学					◎	○	
【臨床実習】社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力とともに、治療評価立案能力・実践能力を育成する。		基礎実習Ⅰ	基礎実習Ⅱ			検査測定実習	評価実習	地域理学療法学実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ			○	◎	

作業療法学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②人の心と生活を支えるために必要な専門知識と技術を兼ね備え、チーム医療・チームケアが実践できる人材を育成するための授業科目を開設する。
③科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験をすることができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②作業療法士としての専門的知識、技術を有し、他職種と協働してチーム医療・チームケアを実践することができ、社会的責任をもって人の心と生活を支援できる。
③向上心、探究心をもって、科学的・創造的思考を身につけ作業療法を実践できるとともに、作業療法の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏｰﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、コミュニケーション概論								◎			
	社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、				社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論							◎
	自然・情報系	生命倫理 統計学、医療とICT、生物学、物理学、人間工学								◎			
											○		
	保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践										○	
	総合系	大学入門講座								○			
	外国語系	医学英語Ⅰ　医学英語Ⅱ 韓国語、中国語、英語（基礎）、英語（応用）、英会話											◎
専門基礎【人体の構造と機能及び心身の発達】正常な人の機能解剖、運動生理、人の成長段階に応じた心身の発達、また正常を逸脱した病気の原因や発生機序についての専門的知識を習得する。これらにより作業療法評価の基礎知識を育成する。		解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 解剖学実習 人間発達学 運動学Ⅰ	解剖学Ⅱ 生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 運動学Ⅱ	運動生理学 運動学実習							◎	○	
【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】疾病及び障害について、病態像、予後予測のための画像診断、また健康操作・促進に対応する栄養学を学ぶ。これにより予防と回復過程に関連する知識を習得し、作業療法評価・治療の実践につながる観察力、判断力を培う。		臨床医学概論 公衆衛生学、栄養学、カウンセリング論	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 薬理学	内科学Ⅰ、神経学Ⅰ 整形外科学Ⅰ 精神医学Ⅰ 臨床心理学概論 小児科学 救急医学	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 整形外科学Ⅱ 老年学 精神医学Ⅱ		医用画像診断学				◎	○	
【保健医療福祉とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの理念】保健医療福祉制度、地域包括ケアシステム、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概念、関係諸機関との連携に関する知識を習得し、各機関、病院における作業療法士が果たすべき役割について学ぶ。また専門職の教育的役割を担う能力を育成する。		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 ケアマネジメント論、保健医療福祉制度論、リスクマネジメント論		関連職種連携論		関連職種連携ワーク					◎	○	
専門【基礎作業療法学】作業療法について、その概念、歴史、「作業」の意味・適応、倫理観、管理運営、また研究法について学び、作業療法の課程について必要な知識と技能を習得する。		作業療法概論 作業学概論 作業工程技術学・基礎論	作業工程技術学・応用論	作業分析学Ⅰ（基礎） 作業応用論	作業分析学Ⅱ（応用）		卒業研究Ⅰ リハビリテーション管理論		卒業研究Ⅱ 作業療法総括論		○	◎	
【作業療法評価学】作業療法過程における評価（画像情報を含む）の枠組みについて、また各障害、各病期、各年齢における評価技法について学び、作業療法評価に必要な知識と技術を習得する。				生活機能論 作業療法評価学概論	作業療法評価学各論 基礎運動機能評価法 高次脳機能評価法 作業療法評価学演習						○	◎	
【作業療法治療学】作業療法過程における治療の枠組みについて、また各疾患、各障害、各年齢への作業の適応について学び、対象者の生活支援に向けた作業療法治療を実践する能力を培う。				作業療法諸理論	作業療法適用学概論 障害代償学概論	中枢神経疾患作業療法学Ⅰ（総論） 精神疾患作業療法学Ⅰ（総論） 小児作業療法学Ⅰ（総論） 生活技術学Ⅰ（総論） 高次脳機能障害作業療法学 運動器疾患作業療法学 内科系疾患作業療法学 自助具・福祉機器適用論	中枢神経疾患作業療法学Ⅱ（各論） 中枢神経疾患作業療法学Ⅲ（特論） 精神疾患作業療法学Ⅱ（各論） 精神疾患作業療法学Ⅲ（特論） 小児作業療法学Ⅱ（各論） 小児作業療法学Ⅲ（特論） 生活技術学Ⅱ（各論） コミュニケーション技術論 老年期作業療法学 装具・副子適用論 義肢適用論				○	◎	
【地域作業療法学】地域包括ケアシステムの枠組みについて、また、各疾患、各障害、各年齢に適した住環境整備、社会資源の活用等について学習し、作業療法士として、障害者児、高齢者の地域生活（在宅生活・就労・就学等）の支援を展開するための能力を培う。			地域生活支援論	バリアフリー論 地域生活作業療法論		住環境整備論 職業関連技術学	作業療法応用学概論				◎	○	
【臨床実習】学内で習得した知識・技術を見学実習、評価実習、総合実習と段階的に、また各障害、各病期、各年齢について偏りなく行うことにより、多様化した社会的ニーズに対応できる専門的知識・技術・態度を習得し、作業療法の実践力を身につける。		基礎実習Ⅰ	基礎実習Ⅱ	地域作業療法実習		検査・測定実習	評価実習	総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ			○	◎	

視能訓練学科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理と豊かな教養を学修するための授業科目を開設する。
②眼科医療において必要とされる専門的知識と技術を学修し、さらに他職種と円滑なコミュニケーションを図りながら医療チームの一員として活躍でき、目の健康と生活の質の向上に貢献できる人材を育成するための授業科目を開設する。
③視覚分野における学術的課題を自ら見出し、科学的根拠に基づいて論理的に分析できる人材を育成するための授業科目を開設する。
④国際的な視点に立ち、周辺諸国の歴史、文化、海外保健事情を理解するとともに海外での活動を体験することができる授業科目を開設する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②視能訓練士として必要な知識と技術を有し、さらに他職種と連携してチーム医療を推進することができ、目の健康と生活の質の向上に貢献できる。
③視覚分野における学術的課題を多角的視点から思考し、収集した情報を科学的根拠に基づいて論理的に分析し解決することができるとともに、視能訓練の指導者・研究者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

	科目分類の学修・教育目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
総合教育科目	【総合教育科目】生命倫理・人の尊厳を幅広く理解し、国際化及び情報化社会に対応できる能力、科学的・論理的思考力、主体的な判断および行動力を育成する。	人間系	心理学、哲学、倫理学、文学、教育学、コミュニケーション概論								◎			
		社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）、海外保健福祉事情Ⅱ（実習）、アジア比較文化論、法学、経済学、				社会学、国際医療福祉論、社会保障制度論、ボランティア論							◎
		自然・情報系	生命倫理 統計学、医療とICT、生物学、物理学、人間工学								◎			
		保健体育系	健康科学理論、健康スポーツ実践									○	○	
		総合系	大学入門講座								○			
		外国語系	医学英語Ⅰ 韓国語、中国語、英語（基礎）、英語（応用）、英会話		医学英語Ⅱ									◎
専門基礎	【人体の構造と機能及び心身の発達】人体の構造と機能及び心身の発達に関する系統だてられた知識を育成する。		解剖学 生理学Ⅰ 人間発達学	生理学Ⅱ 生理学実習 病理学 保育								◎	○	
	【疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】健康、疾病及び障害について、その予防と回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を育成する。		臨床医学概論 カウンセリング論、公衆衛生学、薬理学、栄養学、救急医学、精神医学Ⅱ	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学	内科学Ⅰ 神経学Ⅰ 精神医学Ⅰ 小児科学 臨床心理学概論	内科学Ⅱ 神経学Ⅱ 老年学						◎	○	
	【視覚機能の基礎と検査機器】視覚の情報処理過程を学び、視機能を評価する力を育成する。		視機能概論 生理光学Ⅰ	視器解剖病態学Ⅰ 視覚生理学Ⅰ	生理光学Ⅱ 視覚生理学Ⅱ	生理光学Ⅲ	視器解剖病態学Ⅱ					◎	○	
	【保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念】保健医療福祉推進のために視能訓練士が果たすべき役割について学ぶとともに、地域社会における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 コミュニケーション技術Ⅰ（手話） リスクマネジメント論 ケアマネジメント論、保健医療福祉制度論		関連職種連携論	コミュニケーション技術Ⅱ（点字）	関連職種連携ワーク					◎	○	
専門	【基礎視能矯正学】視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築する能力を育成する。				視能矯正学Ⅰ 視能矯正学Ⅱ	視覚情報処理論Ⅰ	視覚情報処理論Ⅱ 卒業研究Ⅰ 視能矯正学特論	視能矯正学総括論Ⅰ 眼科診療学 視覚情報処理論Ⅲ 視覚と注意		視能矯正学総括論Ⅱ 卒業研究Ⅱ		○	◎	
	【視能検査学】視能検査の専門的知識と技術、その結果を評価する能力育成する。		視能検査学入門	視能検査学基礎	視能検査学Ⅰ	視能検査学Ⅱ 視能検査学Ⅲ 視能検査学Ⅳ	屈折矯正の実際 視覚と画像解析 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学特論		視能検査学総合演習Ⅱ			○	◎	
	【視能障害学】視能障害の予防と治療の観点から、視覚に関わる高次脳機能障害も含めた種々の障害の知識を育成する。				視能障害学Ⅰ 視能障害学Ⅱ	視能障害学Ⅲ	視能障害学Ⅳ 視能障害学評価学 研究と文献Ⅰ 視能障害学特論	視能と高次脳 視能障害学実践演習 研究と文献Ⅱ				○	◎	
	【視能訓練学】視覚発達の促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導及び管理の立場から必要な知識と技術を育成する。				弱視斜視論基礎	弱視斜視論Ⅰ 弱視斜視論Ⅱ 視能訓練学Ⅰ 視能訓練学Ⅱ	弱視斜視論Ⅲ 視能訓練学Ⅲ ロービジョン学	弱視斜視論Ⅳ 視覚とｱﾞｰﾁｬﾙﾘｱﾘﾃｨ 視能訓練学特論	視能訓練学総合演習			○	◎	
	【臨地実習】基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度と医療チームの一員としての責任と自覚を育成する。							臨地実習Ⅰ	臨地実習Ⅱ			○	◎	

言語聴覚専攻科　履修系統図

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
①「生命の尊厳・生命の平等」という基本的倫理を基に言語聴覚療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術を学修するための授業科目を開設する。
②保健・医療・福祉分野における関連職種の役割を理解しチーム医療・チームケアが実践でき、対象者のコミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる能力を身につけるための授業科目を開設する。
③国際的な視点に立ち、言語聴覚療法を学修できる授業を実施する。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
①基本的倫理を理解し、豊かな教養と高い専門能力を用いて、時代のニーズや地域で起こっている課題を理解することができる。
②他職種の役割を理解し、対象者や利用者に共感しながらチーム医療・チームケアが実践でき、コミュニケーションと生活の質の維持・向上に貢献できる。
③言語聴覚療法を実践できるとともに、指導者・教育者となり得る基礎的能力を身につける。
④国際化に対応した幅広い知識・技術を学修し、国際的視点を持つことができる。

ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ（DP）とカリキュラムの関連表（◎強く関連している分野　○関連している分野）

	科目分類	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	DP①	DP②	DP③	DP④
専門基礎	【基礎医学】	医学総論 解剖学 生理学 病理学							
	【臨床医学】	内科学	小児科学 リハビリテーション医学 耳鼻咽喉科学 臨床神経学 精神医学 形成外科学						
	【臨床歯科医学・口腔外科学】	臨床歯科医学・口腔外科学							
	【音声・言語・聴覚医学】	音声言語・聴覚医学 中枢神経機能学							
	【心理学】	生涯発達心理学 心理測定法Ⅰ 学習・認知心理学	心理測定法Ⅱ	臨床心理学					
	【言語学】	言語学							
	【音声学】	音声学							
	【音響学】	音声情報処理学・聴覚心理学							
	【言語発達学】	言語発達学							
	【社会福祉・教育】	リハビリテーション入門 リハビリテーション概論 リハビリテーション演習		社会保障制度論・医療関連法規					
専門	【言語聴覚障害学総論】	言語聴覚障害学概論	言語聴覚障害学演習Ⅰ 言語聴覚障害診断学 言語聴覚障害学特論Ⅰ	言語聴覚障害学演習Ⅱ 言語聴覚障害学特論Ⅱ 言語聴覚障害学研究法概論	言語聴覚障害学特論Ⅲ				
	【失語・高次脳機能障害学】	失語症・高次脳機能障害学 失語症学	失語症学演習 高次脳機能障害学 成人言語障害学演習						
	【言語発達障害学】	言語発達障害学Ⅰ	言語発達障害学Ⅱ 言語発達障害学演習Ⅰ	言語発達障害学演習Ⅱ					
	【聴覚障害学】	聴覚障害学Ⅰ 聴覚障害学Ⅱ	聴覚障害学Ⅲ 聴覚障害学Ⅳ 小児聴覚障害学Ⅰ（基礎） 小児聴覚障害学Ⅱ（応用）						
	【発声発語・嚥下障害学】	発声発語障害学	運動障害性構音障害学Ⅰ（基礎） 摂食・嚥下障害学Ⅰ（基礎）	音声障害学 運動障害性構音障害学Ⅱ（応用） 器質性構音障害学 機能性構音障害学 摂食・嚥下障害学Ⅱ（応用） 吃音学					
	【臨床実習】			臨床実習					

4　大学生活

4.1　大学生活

大学には勉強にも勝る大切なものとして大学行事，そして個人的なクラブまたはサークル活動等がある．様々な活動や人との関わりは人格形成大いに役立つと考えられる．友達や先輩，後輩などとお互いの考えに耳を傾け，その上で共感したり，議論したりできる関係は，将来、医療専門職としての人生も豊かにする．大学行事には，運動会，大学祭などがある．令和元年度の学年暦を表８に示す．

4.2　奨学金および受賞

年間成績優秀賞は，学業成績が優秀で人品の優れた学生を顕彰し，副賞として奨学金が授与される．

4.3　クラブおよびサークル

クラブは大学で承認された公式の認可団体で，部室および援助金が提供される．サークルは個人的な団体（届け出のみで活動可能）である．

クラブ：ボランティア部、フラワーデザイン部、テニス部

サークル：サッカー・フットサルサークル、バレーサークル、バスケットサークル、動物愛護サークル
野球サークル、オールラウンドサークル、シースポーツサークル、ハンドボールサークル
インスタサークル、文房具サークル、レクレーションサークル、陸上サークル、
スロージョギングサークル

4.4　就職　卒業生無

5　委員会

5.1　委員会組織と委員

2019 年度の委員会組織と委員を表 11 に示す。表 12 には 2020 年度の委員を示す。

表 11　2019 年度の委員会委員名簿

名称	委員長	副委員長	PT	OT	ORT	ST
教務委員会	北島	丸山	柊、玉利	北島、松田	吉富、橋本	平島
学生委員会	北島	丸山	玉利、光武	北島、佐野	橋本、佐々木	池下
図書委員会	森		谷口	中薗	森、王	豊嶋
産学・医工連携委員会	北島	丸山	光武	北島、佐野	財津	池下
地域連携・ボランティア	平島	丸山	光武、谷口	佐野、中薗	志岐	平島
ハラスメント防止委員会	平島		柊	北島	吉富	平島
自己点検評価委員会	今泉	丸山	柊	北島	吉富	平島
国際交流・海外実習	菅原	橋本	田川・玉利	菅原・松田	橋本・佐々木	吉永
安全衛生・防災対策	今泉	丸山	柊	中薗	佐々木	吉永
倫理委員会	今泉	吉富	田川	小牧	吉富・王	平島
研究推進委員会	吉富	丸山	玉利	中薗	森、橋本	平島
情報教育（ICT)委員会	玉利		玉利・山之口	北島・松田	橋本	豊嶋
学生募集委員会	柊	丸山	柊、谷口	佐野、中薗	橋本	平島、池下
臨床教育実習委員会	柊	丸山	柊、光武、谷口	松田、佐野	佐々木	吉永

表 12　2020 年度委員会委員名簿

名称	委員長	副委員長	PT	OT	ORT	ST
教務委員会	北島	丸山	柊、吉塚	北島、丹羽	吉富、橋本	平島
学生委員会	北島	木村	光武、谷口	北島、木村	橋本、佐々木	池下
図書委員会	森	中薗	小坂	中薗	森、潮井川	豊嶋
産学・医工連携委員会	北島	山之口	光武、山之口	北島、佐野	財津、堀川	池下
地域連携・ボランティア	平島	丸山	光武、藤田	佐野、中薗	志岐	平島
ハラスメント防止委員会	平島	吉富	柊	北島	吉富	平島
自己点検評価委員会	今泉	丸山	柊	北島	吉富	平島
国際交流・海外実習	菅原	橋本	田川・吉村	菅原・多賀	橋本・佐々木	吉永
安全衛生・防災対策	丸山	佐々木	藤田	中薗	佐々木	吉永
倫理委員会	吉富	田川	田川	小牧	吉富・王	平島
研究推進委員会	吉富	丸山	光武	中薗	飛松	平島
情報教育（ICT)委員会	橋本	山之口	山之口、吉塚	吉田・松田	橋本	豊嶋
学生募集委員会	柊	丸山	柊、谷口	佐野、吉田	橋本	平島・池下
FD委員会	丸山	松田	吉塚	松田	橋本	平島
就職委員会	平島	多賀	谷口	多賀	松藤、潮井川	豊嶋
国家試験対策委員会	丹羽	豊嶋	吉村	吉田	松藤、潮井川	豊嶋
臨床教育実習	柊	丸山	柊、吉村	丹羽、木村	松藤、潮井川	吉永
中期経営計画	今泉	丸山	柊、谷口	北島、中園	吉富、橋本	平島、吉永
管理運営、奨学金委員会	今泉	丸山	柊	北島	吉富	平島

5.2　各委員会

1)教務委員会（FD 委員会含む）

学籍異動、学年暦、カリキュラム、時間割、入学前教育、定期試験、
講義評価アンケート作成と実施
FD 小委員会：FD の開催、FD の年間計画

2)学生委員会

部・サークル活動推進、認定、オリエンテーション、健康診断・管理、ウイルス抗体検査
運動会実施（5 月）大学祭の実施（11 月 2 日）
テニスコート、体育館使用規定
学生生活調査アンケート作成と実施

3)図書委員会

図書選定、図書館開館に関する件など
電子ジャーナル検討

4)地域連携ボランティア委員会

ボランティアの推進、表彰（2 名表彰）
ボランティア活動時のビブス購入
地域公開講座企画実施

5)産学・医工連携

産学・医工連家について検討

6)ハラスメント防止

ハラスメント講習会実施　2 月 12 日
ハラスメント調整会議

7)情報教育（ICT）委員会

ICT の推進
Web Class 導入 Zoom 導入
情報処理室のパソコン

8)国際交流・海外実習

海外保健福祉事情の準備
海外研修の調整

9)臨床実習委員会

関連病院と実習調整、ワクチン接種、基礎実習実施、臨床実習調整

10)入試委員会

AO 入試、センター入試の導入

11)倫理委員会

研究倫理の講習会、研究倫理審査

12)研究推進委員会

研究報告会の開催　４回
学内研究費公募、研究倫理・コンプライアンス研修開催
Researchmap　登録の検討

13)学生募集委員会
学生募集計画と実施、地域公開講座：広報委員会と連携
高校訪問、オープンキャンパス、学校説明会など企画運営

14)安全衛生委員会
校内定期検査、感染者状況把握

15)防災対策員会
防災訓練の実施

16)管理運営委員会
執行部と教員との会議

17)自己点検評価委員会
自己点検評価のための資料収集

18)FD 委員会
研究協力室、研究推進委員会で開催された講習会、セミナーなどの一覧を表 13 に示す。

表 13　FD 等の講習会セミナー

テーマ	講師	開催日	主催
教員説明会	事務局	6月26日	事務局
研究倫理研修会	学長・DVD	8月28日	研究協力室
公的研究費セミナー	学長・DVD	9月12日	研究協力室
コンプライアンス研修	学長・DVD	10月9日	研究協力室
ヘッドマウント型視野計アイモ	吉冨健志	10月30日	研究推進委員会
モーションセンサーの特性・動作分析	柊　幸伸	11月20日	研究推進委員会
階段昇降を支援する電動手すりの開発	北島栄二	12月18日	研究推進委員会
ハラスメント講習会	平島ユイ子	2月12日	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止委員会
	平島ユイ子	2月19日	研究推進委員会

６.国際関係

6.1　留学生（外国人含む）・研修生

1)留学生

理学療法学科　１，２年生　無

作業療法学科　１年生（中国），２年生　無

視能訓練学科　１，２年生　無

言語聴覚専攻科　１，２年生　無

2)研修生受入　無

6.2　国際学術活動

1)学術大会発表

・ 平島ユイ子：31st IALP（International association of communication science）

日時：2019年年8月18-22日

場所：taipei Taiwan

・吉塚久記：7th Triennial Federation of Foot and Ankle Surgeons.

日時：2019年10月11-12日

場所： Bangkok, Thailand.

2)講演：学術大会、研修会など、

・丸山仁司：招待講演.

日時：2019年3月27日

場所：清華大学長庚病院　北京

・丸山仁司：7th International meeting of Asian Rehabilitation Science in China.

日時：2019年3月23日

場所：北京、中国

・丸山仁司：1st forum of Asian rehabilitation

日時：2019年9月29日

場所：西安、北京

6.3他の国際活動

1)視察・研修の受入

ウランバートル　見学　　2019年8月2日

北京三環腫瘍病院　見学　6名　2019年12月18,19日

2)国際学術大会、セミナー開催

(1)アジアリハビリテーションフォーラム（福岡国際医療福祉大学、理学療法科学学会、福岡市協賛）

大会長：今泉　勉学長、　準備委員長　柊　幸伸

日時：2019年11月16日（土）

場所：福岡国際医療福祉大学　国際ホールなど

内容：教育講演、口述発表、ポスター発表、公開講座

7.地域貢献

7.1　地域公開講座

地域社会のために、公開講座およびセミナーを開催している（表 14）

表 14　地域公開講座

内容	講師	対象	日時
STセミナー「言語聴覚士の可能性と広がる未来」	藤田郁代、城間将江	地域・医療福祉	2019年7月7日
OTセミナー「生活を作業する作業療法士の世界」	北島栄二、日田勝子、田中栄一	地域・医療福祉	2019年8月17日
ORTセミナー「視覚障害の未来を拓く視能訓練士の役割」	新井田孝裕、明治博、橋本勇希	地域・医療福祉	2019年8月25日
ORTセミナー「眼科治療とリハビリテーション－視能訓練士のこれから」	石橋達朗、富士昇謙司吉冨健志	地域・医療福祉	2019年9月21日
アジアリハビリフォーラム	アジア諸国	地域・医療福祉	2019年11月16日
ST専攻科主催　子どもの発達と言語聴覚士の支援			
1.学習障害児への配慮と支援	平島ユイ子	地域	2019年11月2日
2.難聴時のきこえの評価と学習の仕方	平島ユイ子	地域	2020年1月25日
3.ことばの育ちとことばを育てる学習	平島ユイ子	地域	2020年2月29日
4.吃音をもつ子供たちへの支援	豊嶋明子	地域	2020年3月7日

7.2　ボランティア

受付：27 団体

参加内容

ラブアース・クリーンアップ（海岸の清掃活動）	6 月 23 日	20 名
福岡山王病院保育所うんどう会手伝	8 月 30 日、9 月 5,7 日	7 名

個人参加は除外

8. 教員紹介と業績

8.1　学長・副学長

1)　今泉　勉　学長　MD

担当科目：臨床医学

研究内容：循環調整、失神

著書論文：最新　高血圧診療学　今泉勉編著　2010年8月永井書店

Transplanted cord blood-derived endothelial precursor cells augment postnatal neovascularization.　J Clin Invest 105(11) 1527-1536

学　　歴：九州大学医学部卒業

博士：九州大学　医学博士

職　　歴：米国バージニア州リッチモンド医科大学助教授

九州大学医学部循環器内科講師

久留米大学医学部心臓血管内科主任教授

国際医療福祉大学副大学院長

資　　格：医師（循環器内科）

役 員 歴：日本高血圧学会理事、日本心不全学会理事

2)丸山　仁司　教授　RPT,PhD

担当科目：癌のリハビリテーション、先端的理学療法学

研究内容：運動学、運動生理学、理学療法教育

著書論文：臨床理学療法マニュアル（南江堂），理学療法技術ガイド（文江堂）

PT・OTのための生理学（廣川書店）

学　　歴：行岡リハビリテーション専門学校卒業

学士：東京理科大学工学部卒業　工学

修士：東京理科大学大学院工学研究科修了　工学修士

博士：埼玉医科大学　医学博士

職　　歴：東京都老人医療センター，板橋ナーシングホーム，東京都老人総合研究所

埼玉医科大学短期大学

国際医療福祉大学保健医療学部理学療法学科教授、副学長、副大学院長

資　　格：理学療法士、

役 員 歴：社）理学療法科学学会会長、NPO法人日本リハビリ国際交流協会理事長

社）リハビリテーション教育評価機構監事、社）全国リハビリ学校協会理事

表15　学科長・専攻長と担任

学科	年	学科長	1年生担任	2年生担任
理学療法	2019年	柊　幸伸	玉利　誠 光武　翼	
	2020年	柊　幸伸	吉村　美香 谷口　隆憲	光武　翼 吉塚　久記
作業療法	2019年	北島栄二	松田　隆治 中薗　寿人	
	2020年	北島栄二	中薗　寿人 木村まり子	松田　隆治 佐野　伸之
視能訓練	2019年	吉冨健志	橋本　勇希	
	2020年	吉冨健志	橋本　勇希	佐々木　信
言語聴覚	2019年	平島ユイ子	池下　博紀	
	2020年	平島ユイ子	吉永　明史	池下　博紀

8.2　医療学部　理学療法学科

(1)　教員紹介

2019 年度教員：柊　幸伸（教授・学科長）
小坂克子（教授：解剖学）、田川辰也（教授：内科）、玉利　誠（准教授）、
山之口稔隆（講師：医療情報）、光武　翼（講師）、谷口隆憲（助教）

2020 年度教員：柊　幸伸（教授・学科長）
小坂克子（教授：解剖学）、田川辰也（教授：内科）、玉利　誠（准教授）、
山之口稔隆（講師：医療情報）、光武　翼（講師）、吉村美香（講師）、
吉塚久記（講師）、藤田大輔（講師）、谷口隆憲（助教）

1)　柊　幸伸　学科長、教授　RPT, PhD

担当科目：大学入門講座、理学療法概論、リハビリテーション概論、義肢学、装具学・他
研究内容：小型センサを用いた動作分析手法の研究・他
著書論文：理学療法学辞典（分担執筆）、医学書院
臨床スポーツ医学（分担監訳）、医学映像教育センター
PT・OT ビジュアルテキスト　義肢・装具学（分担執筆）、羊土社
学　　歴：学士　京都産業大学　経済学部経済学科（経済学）
東京衛生学園専門学校
修士　国際医療福祉大学大学院修士課程（保健医療学）
博士　国際医療福祉大学大学院博士課程（保健医療学）
職　　歴：シャープシステムプロダクト株式会社
海老名総合病院
東都リハビリテーション学院、埼玉医療福祉専門学校教員
国際医療福祉大学、了徳寺大学
福岡国際医療福祉大学　理学療法学科長
資　　格：理学療法士、宅地建物取引主任免許、介護支援専門員、養成施設等教員長期講習会修了
役 員 歴：理学療法科学学会評議員、 リハビリテーション学術センター理事

2)　光武　翼　講師　RPT, PhD

担当科目：物理療法Ⅰ，物理療法Ⅱ，理学療法診断学Ⅱ（神経診断学），理学療法診断学Ⅳ（電気診断学），神経系理学療法学Ⅱ，運動生理学，関連職種連携ワーク，他
研究内容：前庭覚が姿勢制御機能に及ぼす影響，脳卒中患者に対する電気刺激療法が歩行能力に及ぼす効果，歩行時の加速度解析，感覚再比重に関する脳機能解析（fMRI・fNIRS）
著書論文：Greater cervical muscle fat infiltration evaluated by magnetic resonance imaging is associated with poor postural stability in patients with cervical spondylotic radiculopathy. Spine 41(1):8-14, 2016.
Poor gait performance is influenced with decreased vestibulo-ocular reflex in poststroke patients. NeuroReport 28(12):745-748, 2017.
Transient effects of gaze stability exercises on postural stability in patients with posterior circulation stroke. J Mot Behav 50(4):467-472, 2018.
学　　歴：医療福祉専門学校緑生館
学士：人間総合科学大学　人間科学
修士：佐賀大学大学院 医学系研究科修士課程 修了　医科学
博士：佐賀大学大学院 医学系研究科博士課程 早期修了　医科学
職　　歴：白石共立病院 リハビリテーション部
佐賀大学 医学部 客員研究員、非常勤講師
福岡国際医療福祉大学 医療学部 理学療法学科 講師
資　　格：理学療法士、認定理学療法士（基礎）、専門理学療法士（神経）
役 員 歴：該当なし

3) 吉塚　久記　講師　RPT, PhD

担当科目：運動学Ⅰ，運動学Ⅱ，バイオメカニクス，理学療法評価学，運動療法学総論，他

研究内容：足関節・足部の肉眼解剖学的研究，変形性股関節症に対する Leg Jiggling 治療，
整形外科疾患の超音波動態解析，解剖学と動作分析学の教育に関する質的研究，
理学療法の臨床実習教育に関する研究

著書論文：Anatomical variation in the form of inter- and intra-indivitual laterality of the calcaneofibular ligament.Anatomical Science International , 2018

学　　歴：福岡国際医療福祉学院（現：福岡国際医療福祉大学）理学療法学科
修士：佐賀大学大学院　医学系研究科　修士課程医科学専攻修了　医科学
博士：佐賀大学大学院　医学系研究科　博士課程医科学専攻修了　医学

職　　歴：特定医療法人弘医会　福岡鳥飼病院
専門学校　柳川リハビリテーション学院　理学療法学科
福岡国際医療福祉大学　理学療法学科

資　　格：理学療法士，認定理学療法士（ひとを対象とした基礎領域，学校教育）

役 員 歴：福岡県理学療法士会　筑後支部　学術担当　運営委員
第 29 回日本義肢装具学会学術大会（佐賀）運営委員
日本リハ医学会　第 55 回学術集会（福岡）実行委員、プログラム委員
日本理学療法士協会　ガイドライン・用語策定委員会　班員

4) 吉村　美香　講師　RPT, MS

担当科目：生活環境学，地域理学療法学，理学療法診断学Ⅰ,生活技術学，PT スキルⅡ

研究内容：介護予防の効果に関する研究，介護労働者の作業負担

著書論文：なし

学　　歴：柳川リハビリテーション学院卒業
修士：国際医療福祉大学大学院修士課程修了　保健医療学
国際医療福祉大学大学院博士課程満了

職　　歴：医療法人せいわ会 聖和記念病院
医療法人波多江外科医院　介護老人保健 志摩老健センター・パキス
福岡国際医療福祉学院
福岡国際医療福祉大学

資　　格：理学療法士、介護支援専門員

役 員 歴：該当なし

5) 藤田　大輔　講師　RPT, PhD

担当科目：呼吸理学療法学、関連職種連携ワーク、運動系理学療法学Ⅱ、代謝系理学療法学、
循環理学療法学

研究内容：運動負荷における呼吸循環反応の解析

著書論文：Supine effect of passive cycling movement induces vagal withdrawal
Pulmonary oxygen uptake on- kinetics can predict acute physiological responses to resistance exercise training in healthy young men
異なる歩行速度を用いた一段階運動負荷試験による酸素摂取量の時定数の最小可検変化量の検討

学　　歴：学士：聖隷クリストファー大学
修士：聖隷クリストファー大学大学院修士課程　リハビリ科学
博士：聖隷クリストファー大学大学院博士課程　リハビリ科学

職　　歴：ケアハウス第 2 アドナイ館
磐田市立総合病院　リハビリテーション技術科
健康科学大学　健康科学部　理学療法学科

資　　格：理学療法士免許

役 員 歴：該当なし

6) 谷口　隆憲　助教　RPT, PhD
担当科目：運動解剖学，理学療法診断学Ⅲ（疾患別評価），理学療法治療学総論，
運動系理学療法学Ⅰ，病態運動学，理学療法技術学，クリニカルリーズニング
研究内容：運動器疾患患者の運動解析
著書論文：該当なし
学　　歴：福岡国際医療福祉学院　理学療法学科卒業
修士：国際医療福祉大学大学院修士課程　保健医療学
博士：国際医療福祉大学大学院博士課程　保健医療学
職　　歴：白十字病院、諸岡整形外科病院　さくらクリニック
福岡国際医療福祉学院　理学療法学科
福岡国際医療福祉大学　医療学部　理学療法学科
資　　格：理学療法士，認定理学療法士（運動器）
役 員 歴：該当なし

理学療法士以外の教員

7) 田川　辰也　教授　MD, PhD
担当科目：内科学Ⅰ・Ⅱ，病理学，内科学，医学総論，関連職種連携論
研究内容：血管内皮機能，動脈硬化予防，臨床栄養学
著書論文：Vasodilatory effect of arginine vasopressin is mediated by nitric oxide in human forearm vessels.（J Clin Invest 1993）
Long-term treatment with eicosapentaenoic acid improves exercise-induced vasodilation in patients with coronary artery disease.（Hypertens Res 2002）
Defects of vascular nitric oxide bioavailability in subjects with impaired glucose tolerance: A potential link to insulin resistance.（Int J Cardiol 2014）
Valsalva 試験　臨床医のための循環器自律神経機能検査法（メディカルレビュー社）
心不全における末梢循環異常とは　心不全に挑む・患者を救う（新・心臓病診療プラクティス6）（文光堂）
人体の構造と機能および疾病の成り立ち／疾病の成因・病態・診断・治療（医歯薬出版）
学　　歴：九州大学医学部医学科卒業
博士：九州大学：医学
職　　歴：九州大学病院研修医、山口赤十字綜合病院
University of Sydney, Department of Physiology Research Assistant
北九州市立医療センター　循環器内科　部長
琉球大学医学部、大学院　助教授
西南女学院大学　保健福祉学部　栄養学科　教授
福岡国際医療福祉大学　医療学部　理学療法学科　教授
資　　格：医師免許，日本内科学会認定総合内科専門医・認定内科医
日本循環器学会認定循環器専門医，日本高血圧学会認定高血圧専門医
日本医師会認定産業医，日本医師会認定健康スポーツ医
役 員 歴：日本高血圧学会評議員、日本循環器学会九州支部評議員

8) 小坂　克子　教授　D.D.S、PhD
担当科目：解剖学、解剖学実習
研究内容：神経解剖学
著書論文：匂いと香りの科学（分担執筆）　「5．嗅球の構造と機能」　（朝倉書店）
Encyclopedia of　Neuroscience（分担執筆）Vol. 7 P59-69.　Olfactory bulb anatomy（Academic Press）
学　　歴：東京医科歯科大学歯学歯学科
博士：東京医科歯科大学　歯学
職　　歴：日本学術振興会　特別研究員、九州大学医学部保健学部門（解剖学）教授

国際医療福祉大学　福岡保健医療学部　医学検査学科　教授
福岡国際医療福祉大学教授
資　　格：歯科医師
役 員 歴：該当なし

9) 山之口　稔隆　講師　MPH, PhD
担当科目：医療と ICT、統計学
研究内容：医療情報システムに関する研究、医療ビッグデータの可視化に関する研究、公衆衛生学
学　　歴：学士：福岡大学工学部卒業　工学
修士：九州大学医学研究科　修了　医療経営・管理学修士
博士：福岡大学大学院医学研究科修了　医学
職　　歴：株式会社日立メディコ
九州大学病院　医療情報部、福岡大学病院　医療情報部
九州大学　インスティテューショナル・リサーチ室
福岡国際医療福祉大学
資　　格：エックス線作業主任者
日本医療情報学会認定　医療情報技師
日本医療情報学会認定　上級医療情報技師
役 員 歴：日本医療情報学会　上級医療情報技師能力検定試験委員会　委員
日本医療情報学会　医療情報技師能力検定試験・問題作成委員

(2) 研究活動（2019 年度）
1) 著書
2) 原著
・Mitsutake T, Sakamoto M, Horikawa E: The effects of electromyography-triggered neuromuscular electrical stimulation plus tilt sensor functional electrical stimulation training on gait performance in patients with subacute stroke: a randomized controlled pilot trial. Int J Rehabil Res. 42(4):358-364, 2019.
・Iwasaka C, Sakamoto M, Mitsutake T, Horikawa E: Effects of a water-based exercise program on disability prevention in older Japanese adults. Geriatr Gerontol Int. 19(12):1282-1288, 2019.
・Mitsutake T, Sakamoto M, Ueta K, Horikawa E: Standing postural stability during galvanic vestibular stimulation is associated with the motor function of the hemiplegic lower extremity post-stroke. Top Stroke Rehabil. 27(2):110-117, 2020.
・江越正次朗、國分裕一、吉塚久記、光武　翼、大古場良太：若年者の健康コントロール所在と身体機能、身体活動量との関係．理学療法さが．6(1):1-6, 2020.
・Kubo Y, Fujita D, Sugiyama S, Hosokawa M, Nishida Y：Pulmonary oxygen uptake on kinetics can predict acute physiological responses to resistance exercise training in healthy young men. Clin Physilol Funct Imaging. 39(5): 339-344, 2019.
・坂本祐太、藤田大輔、玉木徹、駒形純也、三科貴博、高村浩司：臨床実習実後の主観的満足度は学生の Motivation のタイプにより関連する尺度が異なるー主観的満足度と Academic motivation scale を用いた縦断的観察研究ー．　リハビリテーション教育研究．26：72-77, 2020.
・Kosaka T, Pignatelli A, Kosaka K：.Heterogeneity of tyrosine hydroxylase expressing neurons in the main olfactory bulb of the mouse.　Neurosci Res.（2019 ）　In press
3) 総説
4) 講演（学会，研究会，分科会，シンポジウム等の講演）
・光武　翼：脳卒中患者の画像から見た物理療法効果．福岡県理学療法士協会 第 3 回筑後地区研修会（筑後 2 地区）．柳川リハビリテーション病院　2019 年 9 月 8 日
・光武　翼：急性期脳卒中患者に対する理学療法の理論と実際．日本理学療法士協会主催 理学療法士講習会．広島大学　2019 年 9 月 21 日

・光武　翼：脳卒中患者の姿勢制御機能と電気刺激療法の臨床応用．長崎県理学療法士協会 壱岐地区講習会．長崎県壱岐市　2019 年 10 月 26 日

5) 学会発表

・光武　翼，植田耕造，中田祐治，堀川悦夫：随意運動介助型電気刺激装置による足関節背屈の反復練習と傾斜センサ内蔵型電気刺激装置による歩行練習の併用が歩行安定性に及ぼす影響．第17回日本神経理学療法学術大会．2019年9月29日

・光武　翼，岡真一郎，平田大勝，堀川悦夫：前庭直流電気刺激時の脳活動領域とmodified Clinical Test of Sensory Interaction and Balanceの関連性～GVS-fMRI研究～．第27回日本物理療法学会学術大会．2019年10月20日

・Yoshizuka H, Shibata K, Kuraoka A: Analysis on angles formed by the Calcaneofibular Ligament and Peroneal Tendons in Japanese Cadavers. 7th Triennial Federation of Foot and Ankle Surgeons, Bangkok, Thailand. Oct 11-12, 2019

・藤田大輔，髙村浩司，駒形純也，玉木徹，坂本祐太，三科貴博：高等教育に対する動機付けで分類した職業的アイデンティティに関連する因子について．　第32回教育研究大会・教育研修会，2019，愛知

・坂本祐太，高村浩司，藤田大輔，玉木徹，駒形純也，三科貴博：臨床実習による学習意欲の変化は実習満足度に関連するか．第32回教育研究大会・教育研修会，2019，愛知

・谷口隆憲：足部肢位の相違が骨盤および体幹運動に及ぼす影響.
第2回足の構造と機能研究会学術大会．2019年6月1～2日　大阪

・近江雅代，境田靖子，田川辰也・他：『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開
～2018年度事業概要並びに参加者の行動変容～，第66回日本栄養改善学会・学術総会（富山）

6) 研究報告

7) その他（学位取得，資格取得，研究費）

① 学内研究費（2019 年度）

一般研究

・柊　幸伸：膝関節回旋運動とそれに伴う靭帯ストレス

・小坂克子，光武　翼，吉塚久記，佐野伸之：多視点 3D 解剖教育システムを用いた演習の有用性.

② 学位取得

・谷口　隆憲：博士（保健医療学）国際医療福祉大学大学院

③ 専門理学療法士(日本理学療法士協会認定)取得

④ 認定理学療法士(日本理学療法士協会認定)取得

・谷口　隆憲：認定理学療法士（運動器）

⑤ 研究費（外部資金）

・光武　翼：脳卒中患者に対する前庭眼反射の定量的評価と前庭刺激時の脳活動の解明.
科学研究費 若手研究 B．2017～2019

・光武　翼：脳卒中片麻痺における tDCS と FES の同時介入による新規治療法の開発.
武田科学振興財団．2018～2020

・田川辰也：ω-3 系多価不飽和脂肪酸の継続的摂取による血管内皮機能改善効果の検討（代表）
科学研究費基盤研究 C

・小坂克子：嗅覚一次中枢・嗅球のニューロン構成を形態的に再考する。
基盤研究(C)2017-2019

⑥ 賞罰

・光武　翼：第27回日本物理療法学会学術大会．学会奨励賞受賞　2019年10月20日

(3) 社会活動

1) 講演会等

・吉塚　久記：第 10 回臨床実習指導者講習会（ファシリテーター）
日本理学療法士協会主催　2019 年 6 月 22～23 日

第 6 回臨床実習指導者福岡県講習会（講師）
2019 年 12 月 7～8 日
第 3 回（振替）臨床実習指導者講習会（ファシリテーター）
2020 年 2 月 15～16 日
・吉村　美香：北九州市介護ロボットマスター育成講習会中級
（介護ロボットリーダー育成）コース　講師
・谷口　隆憲：第 5 回臨床実習指導者都道府県講習会（ファシリテーター）.
福岡県理学療法士会主催　2019 年 11 月 30 日～12 月 1 日
臨床現場に要求される実習指導について.
副島整形外科病院主催研修会　2020 年 1 月 28 日
第 3（振替）回臨床実習指導者都道府県講習会（ファシリテーター）.
福岡県理学療法士会主催　2020 年 2 月 15～16 日

3) その他（学術大会，研修会の役員など）
・光武　　翼：福岡県理学療法士協会 福岡支部 2 地区 運営委員（2019～）
・谷口　隆憲：福岡県理学療法士会 福岡支部 2 地区 運営委員
・山之口稔隆：第 39 回医療情報学連合大会　実行委員
第 13 回上級医療情報技師能力検定試験二次試験　面接員

(4) 所属学会
・柊　　幸伸：日本理学療法士協会，理学療法科学学会，日本体力医学会，臨床歩行分析研究会，
日本リハビリテーション教育学会，
国際エクササイズサイエンス学会，アジアリハビリテーション科学学会
・光武　　翼：日本理学療法学会，日本物理療法学会，日本臨床神経生理学会，理学療法科学学会
・吉塚　久記：日本理学療法士協会，日本解剖学会，理学療法科学学会
・吉村　美香：日本理学療法士協会，日本産業衛生学会，理学療法科学学会
・藤田　大輔：日本理学療法士協会，理学療法科学学会
・谷口　隆憲：日本理学療法士協会，日本運動器理学療法学会，日本理学療法教育学会，
理学療法科学学会
・田川　辰也：日本内科学会，日本循環器学会，日本高血圧学会，日本栄養改善学会，
日本心臓リハビリテーション学会
・小坂　克子：日本解剖学会、日本味と匂学会
・山之口稔隆：日本医療情報学会，日本公衆衛生学会

(5) 役員歴
・柊　　幸伸：理学療法科学学会　評議員、リハビリテーション学術センター　理事
・田川　辰也：日本高血圧学会　評議員
日本循環器学会　九州支部評議員
・小坂　克子：日本解剖学会　九州支部評議員
・山之口稔隆：日本医療情報学会　上級医療情報技師能力検定試験委員会　委員
日本医療情報学会　医療情報技師能力検定試験・問題作成委員

(6) その他
・山之口稔隆 ：福岡大学大学院医学研究科　研究員

8.3　医療学部　作業療法学科

(1)教員紹介

2019 年度教員：北島栄二（教授・学科長）

菅原洋子（教授）、小牧　元（教授：心療内科）　尾籠晃司（教授：精神医学）、松田隆治（准教授）、中薗寿人（講師）、佐野伸之（講師）

2020 年度教員：北島栄二（教授・学科長）

菅原洋子（教授）、丹羽敦（教授）、小牧　元（教授：心療内科）、新居見和彦（教授：小児科）、副島修（教授：整形外科）、 尾籠晃司（教授：精神医学）、 松田隆治（准教授）、多賀誠（准教授）中薗寿人（講師）、佐野伸之（講師）、木村まり子（助教）、吉田亮平（助教）

1)　北島　栄二　教授　OTR, PhD

担当科目：障害代償学概論、自助具・福祉機器適用論、装具/副子適用論、義肢適用論、住環境整備論

研究内容：1.福祉用具の利用満足度，2.住環境整備の実態，3.産学連携による福祉用具の開発，4.医療と介護の連携における福祉用具提供のあり方，5.介護ロボットのニーズ・シーズ調査ならびに介護技術開発支援

著書論文：Actual use of and satisfaction with rollators and ‘shopping carts’ among frail elderly Japanese people who use day-service facilities,Disability and Rehabilitation: Assistive Technology，,Published online: 06 Apr 2016

生活環境学テキスト （シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ），細田 多穂 （監修），北島 栄二・他 （編集），南江堂

学　　歴：長崎大学医療技術短期大学部作業療法学科

修士（医科学：H19）佐賀大学大学院医学系研究科　医科学専攻修士課程

博士（医学：H28）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻

職　　歴：医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院 作業療法科　主任

㈳緑生館 医療福祉専門学校緑生館 作業療法学科　専任教員

佐賀県長寿社会振興財団 佐賀県介護実習普及センター 専門相談員

厚生労働省 老健局振興課　福祉用具・住宅改修指導官

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科　准教授

長崎大学 産学官連携戦略本部　准教授

文科省地域イノベーション戦略支援プログラム招聘研究員

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 作業療法学科　教授

福岡国際医療福祉大学医療学部 作業療法学科　教授　（現在に至る）

資　　格：作業療法士

役 員 歴：（一社）日本作業療法士協会制度対策部福祉用具対策委員会委員（副委員長）

日本健康促進医学会評議員、NPO 法人長崎斜面研究会監事

2)　菅原　洋子　教授　OTR、PhD

担当科目：リハビリテーション概論　作業学概論　海外保健福祉事情Ⅰ・Ⅱ　運動学Ⅰ・Ⅱ

研究内容：頚髄損傷者の社会参加　発展途上国の作業療法

著書論文：作業療法学全書第 3 版　身体障害　　協同医書出版社

作業―その治療的応用　　協同医書出版

標準作業療法学「身体機能作業療法学」　　医学書院

頚髄損傷者の機能再建術後の長期経過　作業療法 26(5): 449 - 458 2007

学　　歴：国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院卒業

学士：法政大学第二文学部卒業

修士：筑波大学大学院教育研究科修了（カウンセリング学）

博士：国際医療福祉大学大学院博士課程修了（保健医療学）

職　　歴：厚生連　鹿教湯温泉療養所、東京都心身障害者福祉センター

国立療養所東京病院付属リハビリテーション学院　教員

国立療養所村山病院

国際医療福祉大学保健医療学部講師、小田原保健医療学部学科長
JICA シニアボランティア（ミャンマー）
福岡国際医療福祉大学教授
資　　格：作業療法士
役 員 歴：栃木県作業療法士会理事、大田原市介護認定審査委員、神奈川県作業療法学会学会長

3) 丹羽　敦　教授　OTR　MS
担当科目：作業療法概論、作業療法評価学概論、生活機能論、地域作業療法学概論、卒業研究他
研究内容：在宅障害者（児）・高齢者の QOL、作業療法教育、作業療法臨床教育
著書論文：作業療法臨床実習のチェックポイント（メジカルビュー）
PT・OT ﾋﾞｭｼﾞｭｱﾙﾃｷｽﾄ　ADL（羊土社）、リハビリテーション基礎評価学（羊土社）
作業療法管理学入門（医歯薬）
新しい臨床実習形態の提案（作業療法ジャーナル）
病棟看護婦による退院計画の展開とそれに影響する要因との関連（在宅ケア学会誌）
学　　歴：熊本リハビリテーション学院卒
学士：北九州大学卒　（英米学科）
修士：国際医療福祉大学大学院修了　(保健医療学)
職　　歴：慈恵曽根病院、柳川ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学院
国際医療福祉大学 保健学部・福岡保健医療学部、大学院
福岡国際医療福祉学院 作業療法学科 専任教員
広島都市学園大学健康科学部作業療法学専攻 教授、専攻長、大学院教授
福岡国際医療福祉大学 医療学部 作業療法学科 教授
資　　格：作業療法士、認定作業療法士、介護支援専門員、福祉用具プランナー
役 員 歴：福岡県作業療法協会理事、福岡県社会福祉協議会 福祉用具専門部会長
福岡市介護認定審査会 副部会長、広島県作業療法学会長
日本作業療法協会 教育部 養成教育委員会 副委員長（現）

4) 松田　隆治　准教授　OTR、MS
担当科目：作業療法評価学各論、中枢神経疾患作業療法学Ⅰ」（総論）、内科系疾患作業療法学、作業療法総括論、検査・測定実習、評価学実習、総合実習Ⅰ・Ⅱ
研究内容：イメージ（in put）と運動（out put）の関連、効果的な授業展開
著書論文：社会リハビリテーションの課題（分担執筆、中央法規）
からだの動きの解剖生理学（分担執筆、金芳堂）
日常生活活動の作業療法（分担執筆、中央法規）
これで解決！PT・OT・ST 臨床実習まるごとガイド（監修、金芳堂）
実習の要点を網羅！　作業療法臨床実習のチェックポイント（編集、メジカルビュー社）
学　　歴：熊本リハビリテーション学院　作業療法学科卒業
学士：明星大学人文学部　心理・教育学科卒業
修士：日本大学大学院総合社会情報研究科　人間科学専攻修士課程修了
九州保健福祉大学大学院保健科学研究科　博士課程単位修得後退学
職　　歴：湯布院厚生年金病、吉備国際大学作業療法学科助手、九州保健福祉大学作業療法学科講師
熊本総合医療リハビリ学院作業療法学科講師、九州栄養福祉大学作業療法学科講師、
帝京大学福岡医療技術学部准教授、福岡国際医療福祉大学（現在）
資　　格：作業療法士、認定作業療法士、臨床実習指導認定者
役 員 歴：大分県作業療法士会副会長、宮崎県作業療法士会会長、延岡市介護認定審査会審査委員、
日本作業療法士協会教育部研修運営委員会生涯教育研修運営班長、大牟田市手鎌地区地域ケア会議委員

5) 多賀　誠　准教授　OTR，MS

担当科目：作業療法諸理論，精神疾患作業療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，コミュニケーション技術論，
職業関連技術学，作業療法総括論，地域作業療法実習，検査・測定実習，評価実習，
総合実習Ⅰ・Ⅱ，海外保健福祉事情Ⅱ，卒業研究Ⅰ・Ⅱ

研究内容：精神障害者のリハビリテーション，精神障害者の就労支援，臨床教育

著書論文：保健医療福祉のための臨床推論（朝倉書店）
国試の達人 作業療法編（アイペック）
ひとりで学べる 作業療法士国家試験 問題と詳解（廣川書店）

学　　歴：労働福祉事業団　九州リハビリテーション大学校　作業療法学科
修士：国際医療福祉大学大学院　保健医療学専攻　作業療法学分野　修了

職　　歴：医療法人 慈光会 若久病院
精神障害者地域生活援助事業所グループホーム若久荘
精神障害者社会適応訓練事業所ソシエテわかひさ
柳川リハビリテーション学院　作業療法学科
JICA（国際協力機構）より専門家として中国北京へ派遣
福岡国際医療福祉学院　作業療法学科
国際医療福祉大学福岡保健医療学部講師、准教授・大学院准教授
福岡国際医療福祉大学　医療学部　作業療法学科　准教授

資　　格：作業療法士

役 員 歴：福岡・佐賀精神科 OT 懇話会（現福岡県精神科病院協会 OT・PT 会）筑後ブロック長
福岡ブロック運営委員、 福岡・佐賀精神科 OT 懇話会
福岡県作業療法協会　規約委員、将来構想委員、福岡市体育振興会
日本作業療法士協会　教育部　生涯教育運営委員
九州作業療法士学校連絡協議会 OT 啓発プロジェクト実行委員、新人教員教育実行委員
特定非営利活動法人とびら　理事

6) 佐野　伸之　講師，OTR，PhD

担当科目：地域生活作業療法論，作業分析学Ⅰ，作業分析学Ⅱ，基礎作業実習Ⅰ，基礎作業実習Ⅱ

研究内容：モチベーション（達成動機），地域リハビリテーション，介護予防，高次脳機能障害

著書論文：実習の要点を網羅！作業療法臨床実習のチェックポイント（分担），株式会社メジカルビュー社，2020
PT・OT ビジュアルテキスト 身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編 第1版(分担)，
株式会社羊土社，2018

学　　歴：吉備国際大学保健科学部作業療法学科
修士（保健学：2013 年）吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程
博士（保健学：2016 年）吉備国際大学大学院保健科学研究科博士後期課程

職　　歴：一般財団法人津山慈風会津山中央病院、株式会社アール・ケア
吉備国際大学保健医療福祉学部作業療法学科　講師
国際医療福祉大学福岡保健医療学部作業療法学科　講師
福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科　講師

資　　格：作業療法士，認定作業療法士，作業療法士臨床実習指導者

役 員 歴：岡山県作業療法学会演題査読委員，第 29 回岡山県作業療法学会実行委員，
「作業療法おかやま」論文査読委員，日本作業療法学会 第 5 期演題審査委員，
第 23 回福岡県作業療法学会査読委員，ジャーナル「作業療法・福岡」論文査読委員

7) 中薗　寿人　講師　OTR, PhD

担当科目：作業工程技術学・基礎論、作業工程技術学・応用論

研究内容：非侵襲的脳刺激法、脳波などを用いた脳機能研究（運動、視覚、高次脳）、パーキンソンのリハビリテーション

著書論文：
学　　歴：メディカルカレッジ青照館
修士：九州大学大学院医学系学府 医科学専攻修了　医科学修士
博士：九州大学大学院医学系学府 医学専攻修了　博士
職　　歴：熊本機能病院 総合リハビリテーション部
麻生介護サービス アップルハート訪問看護ステーション福岡西
九州大学大学院医学系学府 ティーチング・リサーチ　アシスタント
日本学術振興会特別研究員（DC1）、（PD）
福西会南病院 リハビリテーション部
資　　格：作業療法士
役 員 歴：

8) 木村　まり子　助教　OTR　MS
研究内容：小児作業療法，障害児および境界児療育のコンサルテーション，
小児へのウェイティッドひざ掛けの効果
学　　歴：熊本リハビリテーション学院　作業療法学科　卒業
修士：国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修了　保健医療学
職　　歴：社会福祉法人こぐま福祉会　肢体不自由児通園施設　こぐま学園
介護老人保健施設ケアプラザ伊都、おがた小児歯科医院発達保育科
熊本県福祉総合相談所　発達障害児通園指導事業　非常勤
玉名市・荒尾市社会福祉協議会　在宅障害児指導事業　非常勤
久山町・粕屋町ことばの教室非常勤、介護老人保健施設　ケアプラザ伊都
福岡国際医療福祉学院
福岡国際医療福祉大学
資　　格：作業療法士、 感覚統合療法認定セラピスト

9) 吉田　亮平　助教　OTR　MS
担当科目：運動学実習、基礎運動機能評価法、作業療法評価学演習、運動器疾患作業療法学
研究内容：脳血管疾患後の ADL、IADL に関する研究
著書論文：
学　　歴：修士（保健医療学：H24）国際医療福祉大学大学院
博士課程単位取得後退学（H27）国際医療福祉大学大学院
職　　歴：柳川リハビリテーション病院・高邦会グループ病院（H16.4～H24.3）、柳川リハビリテーション学院（H24.4～H31.3）、福岡国際医療福祉学院（H31.4～R2.3）、福岡国際医療福祉大学（R2.4～）
資　　格：作業療法士（H16）
役 員 歴：

作業療法士以外
10） 小牧　元　教授　MD, PhD
担当科目：医学総論、生命倫理
研究内容：中学生の食行動異常の実態と関連要因に関する大規模地域調査研究
肥満の臨床評価ならびに認知行動療法の開発研究
心身症・アレキシサイミアの病態解明・脳機能画像研究
著書論文：「ストレス　体と体質の科学 Newton ニュートンムック別冊」「行動変容の応用、行動医学テキスト　中外医学社」「心身症の診断：心身医学標準テキスト第 3 版、医学書院」・「心身医学的要因による疾患 13 章 5 内分泌・代謝系疾患、最新内科学、西村書店」「心身症診断・治療ガイドライン 2006　協和企画」・「摂食障害治療ガイドライン．医学書院」・「ストレス性障害；心の健康科学研究の現状と課題．（財）精神･神経科学振興財団」、「摂食障害治療ハンドブック　（監訳・翻訳）金剛出版」・「肥満の認知行動療法（監訳・翻訳）金剛

出版」、・Interactions between cytokines and the hypothalamic-pituitary-adrenal axis during stress. Ann N Y Acad Sci. 1994、・Somatization and Psychosomatic Symptoms. Chapter 4 Alexithymia and Somatic Symptoms. Springer, New York, 2013

学　　歴：米国Salem Senior High School卒業
鹿児島大学医学部医学科卒業
博士：九州大学　医学博士

職　　歴：天理よろづ相談所病院内科系レジデント
九州大学医学部心療内科
米国Tulane大学医学部研究員
九州大学医学部心療内科講師
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所心身医学研究部長
国際医療福祉大学福岡保健医療学部教授
福岡国際医療福祉大学医療学部教授
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所名誉所員

資　　格：医師免許証、日本内科学会内科認定医、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医
日本心身医学会心身医療(内科)専門医、日本心療内科学会心療内科専門医
World Health Organization Composite International Diagnostic Interview WHO-CIDI3.0
認定証取得、日本心身医学会・日本心療内科学会合同心療内科専門医認定、心療内科専門医、
「精神科専門医ではない精神科医のための除外要件（ニ）に関わる認定証」取得
日本医師会認定産業医

役 員 歴：日本心身医学会（評議員、代議員、監事、英文誌編集委員会委員長BioPsychoSocial Medicine , Editor-in-Chief)、日本心療内科学会評議員、日本ストレス学会評議員、日本自律訓練学会評議員、日本摂食障害学会理事長、日本肥満症治療学会評議員

11）尾籠　晃司　教授　MD　PhD

担当科目：精神医学Ⅰ・Ⅱ

研究内容：老年精神医学、認知症の症状と脳画像所見

著書論文：内科医のための認知症診療はじめの一歩（分担）（羊土社）
臨床精神医学講座（分担）（中山書店）
脳とこころのプライマリケア（分担）（シナジー）

学　　歴：九州大学医学部卒業
博士：九州大学　医学博士
ミュンヘン大学神経病理学研究所

職　　歴：九州大学病院精神科神経科
福岡大学医学部精神医学教室
福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科

資　　格：精神保健指定医、日本精神神経学会専門医・指導医、日本老年精神医学会専門医・指導医
日本認知症学会専門医・指導医

役 員 歴：日本老年精神医学会評議員、九州精神神経学会評議員、福岡市精神医療審査会委員、福岡県介護保険審査会委員、福岡市認知症にやさしいデザインガイドライン策定委員会委員、福岡市保健福祉審議会臨時委員

⑵　研究活動（2019年度）

1）著書

・丹羽敦：作業療法臨床実習のチェックポイント（メジカルビュー）編者・著者
・松田隆治：実習の要点を網羅！作業療法臨床実習のチェックポイント（編集、メジカルビュー社）
・佐野伸之（分担）：丹羽敦，松田隆治　編集：実習の要点を網羅！作業療法臨床実習のチェックポイント　株式会社メジカルビュー社 2020-3-30　執筆：第5章-5 末梢神経損傷（上肢）

2）原著

・田代 大祐，中原 雅美，北島 栄二，金子 秀雄，原口 健三，排泄姿勢の違いが呼吸機能に及ぼす

影響，理学療法科学 34(4) 517 - 521 2019.

・Yamato S, Kurematsu A, Amano T, Ariga H, Ando T, Komaki G, Wada K.Urocortin 1: A putative excitatory neurotransmitter in the enteric nervous system. Neurogastroenterol Motil. 2020 Mar 20:e13842. doi: 10.1111/nmo.13842.

・Nishihara T, Nozaki T, Sawamoto R, Komaki G, Miyata N, Hosoi M, Sudo N. Effects of Weight Loss on Sweet Taste Preference and Palatability following Cognitive Behavioral Therapy for Women with Obesity. Obes Facts 12:529-542, 2019 (DOI: 10.1159/000502236)

・小山憲一郎、荒木久澄、小牧　元、野崎剛弘. マインドフルネス食観トレーニング：Mindfulness-Based Eating Awareness Training（MB-EAT）に関する基礎研究―チョコレートエ クササイズのマインドフルネス音声教示はチョコレートの摂取量を減らしうるか―. 福岡県立大学人間社会学部紀要 28（2）:41-53, 2020

・澤本良子、野崎　剛弘、西原智恵、小牧　元、須藤信行. 双極性障害，むちゃ食い障害を伴う高度肥満症患者への認知行動療法の奏功例. 肥満研究　25（2）：89-93, 2019

・Nakazono, H., Ogata, K., Takeda, A., Yamada, E., Kimura, T., & Tobimatsu, S.: Transcranial alternating current stimulation of α but not β frequency sharpens multiple visual functions. Brain Stimulation, 13(2), 343–352,2020.

・Sano, N., & Nakazono, H.:Determination of a cut-off point of a scale for achievement motive in geriatrics that predicts the frequency of undertaking instrumental activities of daily living in community-dwelling elderly people. Advances in Aging Research, 8, 107–118、2019.

・Ogata, K., Nakazono, H., Uehara, T., & Tobimatsu, S.:Prestimulus cortical EEG oscillations can predict the excitability of the primary motor cortex. Brain Stimulation, 12(6), 1508–1516,2019.

・Hayashi R, Ogata K, Nakazono H,　Tobimatsu S.　Modified ischemic nerve block of the forearm: use for the induction of cortical plasticity in distal hand muscles. The Journal of Physiology, 597, 3457-3471,2019.

・佐野伸之：高齢者版達成動機尺度（Scale for Achievement Motive in Geriatrics：SAMG）の開発と妥当性，信頼性の検討．総合リハビリテーション 47 (12) 1221-1229，2019

・Sano N, Nakazono H: Determination of a cut-off point of a Scale of Achievement Motive in Geriatrics that predicts the frequency of undertaking instrumental activities of daily living in community-dwelling elderly people. Advances in Aging Research, 8 (6) 107-118, 2019.

・佐野伸之，齋藤みのり，小林隆司，南征吾，河本聡志：作業療法士のコンサルテーション事業によって得られる放課後児童支援員のスキルアップの構造．作業療法 38 (4) 440-449，2019

・齋藤みのり，佐野伸之，小林隆司：ファンタジー没頭によって生活障害を呈する広汎性発達障害男児への支援．作業療法 38(1) 72 – 77，2019.

・吉田亮平 ,原口健三：脳卒中片麻痺者の「できる ADL」と「している ADL」の差異:バランス,体幹機能,意欲の影響，作業療法ジャーナル 48(3)241-248，2014.

・吉塚久記,下條聖子,本多裕一,吉田亮平,浅見豊子：専門学校理学療法学科および作業療法学科における現役入学生と非現役入学生の学習動機に関する縦断研究，理学療法福岡(29)51-54，2016.

・吉塚久記,下條聖子,本多裕一, 吉田亮平 ,浅見豊子：専門学校における現役入学生と非現役入学生の学習動機の特徴:―理学療法学科および作業療法学科での 3 年間の比較研究―，理学療法科学 31(2)343-348，2016.

・吉田亮平,原口健三：脳卒中患者の作業療法における ADL,IADL 評価の視点，柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要 1311-1319，2017.

3)　総説

・北島栄二, 福祉用具機器で自立した生活を(第 10 回) 歩行器での移動(屋外), ふれあいケア, 26(2), 50 – 53，2020.

・北島栄二, 福祉用具機器で自立した生活を(第 9 回) 歩行器での移動(屋内)　, ふれあいケア, 26(1), 50 - 53 ，2020.

・高倉　修、小牧　元. 特集　摂食障害の理解と対応　摂食障害の臨床現場における診断・治療の現状と課題. 公衆衛生.83(10). 731-737. 2019

・高倉　修、小牧　元. 特別企画　摂食障害の生きづらさ　摂食障害の精神病理ー歴史と現在. こころの科学.　209.　18-24. 2020

・野崎剛弘、小牧　元. 須藤信行. 特集/肥満症：最新の治療. 心理療法：認知行動療法とマインドフルネス. 臨床と研究 96(6): 679-685, 2019

4)　講演（学会，研究会，分科会，シンポジウム等の講演）

・Komaki G.　Developing a structured interview for alexithymia, the 10-item version of　the modified Beth Israel Hospital Psychosomatic Questionnaire. at Symposium:Alexithymia 3.0: New Developments in Conceptualization and Measurement. 7th International Conference on Emotions, well-being, and health. Tilburg University, the Netherlands. October 15 -19, 2019

・Nozaki T, Sawamoto R, Nishihara T, Komaki G, Sudo N. Are cognitive behavioral strategies to increase adherence to exercise effective for long-term weight loss maintenance by women with overweight and obesity? A randomized controlled trial. 25th World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine, Florence, Italy. September 11-13, 2019

・丹羽敦：沖縄リハビリテーション福祉学院 臨床実習指導者会議 特別講義 講師 「指定規則改正と新しい作業療法臨床実習のあり方」（4 月）

・丹羽敦・2019 年度 厚生労働省指定　臨床実習指導者講習会　講師（6 月:鳥取会場、7 月：東京会場・岡山会場、8 月:石川会場、9 月:群馬会場、10 月:青森会場、11 月:大阪会場、12 月:沖縄会場）　「講義及び演習　臨床実習指導方法論」「演習　基本的態度・臨床技能・臨床思考過程の見学ー模倣ー実施の実践」「演習　作業療法参加型臨床実習の理解」

・丹羽敦：日本作業療法協会 教育部 生涯教育研修「教育法」講師 「情意領域の効果的な教育方法」（10 月）

・丹羽敦：第 1 回保健学フォーラム　特別講演 「臨床実習教育の今後の方向性」（9 月）

5)　学会発表

・北島 栄二, 東 登志夫，シルバーカーを使用している要介護高齢者における適切な歩行補助具選択のためのバランス能力検査の活用，53 回日本作業療法学会，2019 年 9 月 6 日

・田代 大祐, 中原 雅美, 北島 栄二, 金子 秀雄, 原口 健三，排泄姿勢の違いによる呼吸機能の変化　，53 回日本作業療法学会，2019 年 9 月 6 日

・伊賀 信也, 原口 健三, 北島 栄二, 要支援高齢者における動的バランス能力と生活活動量の関係，53 回日本作業療法学会，2019 年 9 月 6 日

・小牧　元, 西村大樹，前田基成. 体重増加のない女子中学生の心理身体的特徴：縦断研究. 第59回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9

・西村大樹，前田基成，小牧 元. 女子中学生の食行動異常発症の危険性を予測する因子を同定するためのコホート研究. 第2回日本心身医学会関連学会合同集会/大阪、2019.11.15-17（優秀演題賞）

・西村大樹，前田基成，小牧 元. 中学生における摂食障害傾向とインターネット依存傾向の継年的変化：性別と首都圏ー地方都市による比較）第2回日本心身医学会関連学会合同集会/大阪、2019. 11.15-17

・荒木久澄、小山憲一郎、野崎剛弘、小牧　元 、須藤信行. マインドフルネス食観トレーニング(MB-EAT)を用いた集団肥満治療. 第2回日本心身医学会関連学会合同集会/大阪、2019.11.15-17（優秀演題賞）

・野崎剛弘、澤本良子、西原智恵、小牧　元、須藤信行. 女性肥満症患者におけるアクチグラフを用いた睡眠指標と尿酸値との関連. 第2回日本心身医学会関連学会合同集会/大阪、2019.11.15-17

・野崎剛弘、西原智恵、荒木久澄、小牧　元、須藤信行. 「ストレス対処法～認知行動療法とマインドフルネス～.（パネルディスカッション「肥満と糖尿病」、第7回肥満症治療講習会）. 第27回西日本肥満研究会、福岡、2019,7.20-21

・野崎剛弘、坂口淳子、小牧 元、須藤信行. 高機能広汎性発達障害を伴った高度肥満症男性患者との11年におよぶ治療経過. 第40回日本肥満学会、第37回日本肥満症治療学会合同学術集会. 東京、2019.11.2-3

・澤本良子、野崎剛弘、西原智恵、小牧　元、須藤信行. 女性肥満症患者において、短時間睡眠は

高尿酸血症と関連する. 第40回日本肥満学会、第37回日本肥満症治療学会合同学術集会. 東京、2019.11.2-3

・小山憲一郎、荒木久澄、小牧　元、野崎剛弘. 肥満症治療のためのマインドフルネス―Mindfulness Based Eating Awareness Trning (MB-EAT)―. JSTOメンタルヘルス・行動医学セミナー. 行動学講習会.肥満症患者の心理・行動面を扱うための基本と応用. 第40回日本肥満学会、第37回日本肥満症治療学会合同学術集会. 東京、2019.11.2-3

・荒木久澄、小山憲一郎、野崎　剛弘、小牧　元、須藤　信行. 新たな肥満治療戦略、マインドフルネス食観トレーニングMindfulness-Based Eating Awareness Training (MB-EAT). 第6回日本マインドフルネス学会. 吹田、2019. 8.24-25

・澤本良子、野崎剛弘、西原智恵、小牧　元、金光芳郎、須藤信行. 肥満症の認知行動療法―有効性と限界について―(シンポジウム2「肥満治療の地平:各専門領域における治療戦略と各科連携」). 第59回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9

・澤本良子、野崎剛弘、西原智恵、小牧　元、須藤信行. 女性肥満症患者において、短時間睡眠は高尿酸血症と関連する.　第59回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9

・西原智恵、野崎剛弘、澤本良子、荒木久澄、小牧　元、須藤信行. 減量治療経過で過度の体重減少をきたし、心身医学的治療が重要であった2例. 第59回日本心身医学会九州地方会. 福岡、2020.2.8-9

・丹羽　敦：実習指導者によるルーブリック評価と主観的評価(NRS)の相関」

・丹羽　敦：臨学協同による新たな臨床実習形態の実践について～事前に症例情報提供を受けた教員

・丹羽　敦：帯同による臨床教育～」(2019.8)

・丹羽　敦：「作業療法学生における睡眠負債の実態調査」(2019.9)

・多賀　誠, 原口健三, 長谷麻由, 有久勝彦：精神障害分野におけるクリニカル・クラークシップ型臨床実習導入への試み～指導者と学生の主観的到達度の比較～　第53回　日本作業療法学会　2019.9.8　福岡市（福岡県）

・多賀　誠, 日田勝子, 長谷麻由, 有久勝彦, 松野豊, 原口健三：精神障害分野におけるクリニカル・クラークシップ型臨床実習導入の実践～作業療法学生の主観的到達度の比較～　第32回　教育研究大会・教員研修会　2019,8,29　春日井市（愛知県）

・松野　豊, 多賀　誠, 日田勝子, 長谷麻由, 有久勝彦, 新川寿子：CCSにおける疾患領域別対象者経験数の調査　第32回　教育研究大会・教員研修会　2019,8,29　春日井市（愛知県）

・長谷麻由, 多賀誠, 日田勝子, 有久勝彦, 松野豊, ：臨床実習における生活行為マネジメントの導入の試み～臨床実習におけるMTDLP活用案～第32回　教育研究大会・教員研修会　2019,8,29　春日井市（愛知県）

・緒方勝也, 中薗寿人, 後藤純信, 飛松省三. 10 Hz tACSのシータバースト刺激に対する位相依存的効果. 第49回日本臨床神経生理学会学術大会 2019. 11. 29. 福島（福島）

・中薗寿人, 緒方勝也, 竹田昂典, 飛松省三. 経頭蓋交流電気刺激を用いた新しい脳可塑性誘導法の開発. 第49回日本臨床神経生理学会学術大会 2019. 11. 29. 福島（福島）

・佐野伸之：福岡市の一人暮らし世帯高齢者に対する健康促進に関わる要因と現状の調査研究. 第9回国際医療福祉大学学会学術大会　2019.9.15.　東京（赤坂）

・佐野伸之：地域サロン参加者の達成動機のランクに応じた特徴－潜在ランク理論による段階づけと分散分析を用いた検討－ 第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡（福岡）

・澤田紘太朗, 岩田美幸, 佐野伸之：通所介護施設において園芸活動がQOLに与える影響―農村体験型施設と通常型施設での検討―.　第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡（福岡）

・佐野裕和, 佐藤恭子, 川上浩一郎, 神田裕一, 佐野伸之：IADL評価尺度であるFAIの項目反応理論を用いた尺度特性の検討.　第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡（福岡）

・木村まり子, 佐野伸之：作業療法士による保育園訪問指導の取り組み－発達障がい児への理解と対

応への間接支援を通してー．　第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡（福岡）

・水木彰宏, 佐野伸之：重度アテトーゼ型脳性麻痺児に対して座位保持改善に向けた実践ー理学療法士と定期的な同行訪問を行った取り組みー．　第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡（福岡）

・齋藤みのり, 佐野伸之, 小林隆司：『生活介護』における作業療法士という職種に対しての認識のされ方と求められる役割 第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡（福岡）

・榎田真吾, 塚本和代, 副島修, 廣田浩志, 佐野伸之：母指CM関節症に対するMini TightRopeを使用した靭帯再建関節形成術後の短期成績報告．第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡（福岡）

・松本健太郎, 佐野伸之：リハビリテーションに関する達成動機尺度に基づく自己評定法と面接法を併用した人工股関節全置換術後の患者に対する介入．第53回日本作業療法学会 2019.9.6-8.　福岡

・佐野 伸之：地域在住高齢者の要介護状態に関連する要因ー地域サロン参加者に対する探索的検ー 第1回九州作業療法学会，2019.6.22 福岡（北九州）

・田島誠人, 佐野伸之：特発性肺線維症患者の在宅生活への不安解消を図り活動量向上を行った一例 第1回緩和理学療法カンファレンス 2019.2.23 兵庫（神戸）

・水木彰宏, 佐野伸之：重度アテトーゼ型脳性麻痺児の鍵盤操作の検討―音楽活動再開を目指した特別支援学校との連携― 第19回愛媛県作業療法学会 2019.2.17　愛媛（松山）

・吉田亮平、原口健三：脳卒中片麻痺者の「できるADL」と「しているADL」の差異～バランスと体幹機能の影響～，第47回日本作業療法学会，2013.

・吉田亮平、奈良直貴、山﨑　一朗、中満　篤子、上原　美智代、徳永茂子：客観的臨床能力試験（OSCE）における評価得点と学生の自己評価の関係，第37回九州理学療法士・作業療法士合同学会，2015.

・吉田亮平,上原美智代,奈良直貴,伊賀信也,池田茂子：臨床実習におけるルーブリック評価の作成と信頼性の検討，第53回日本作業療法学会，2019.

・奈良直貴,吉田亮平,上原美智代,池田茂子,中満篤子：臨床実習におけるルーブリック評価の分野間比較，第53回日本作業療法学会，2019.

・上原美智代,吉田亮平,奈良直貴,中満篤子,伊賀信也：臨床実習におけるルーブリック評価と学生印象点との関係，第53回日本作業療法学会，2019.

・木村まり子：作業療法士による保育園訪問指導の取り組みー発達障がい児への理解と対応への間接支援を通してー　第53回日本作業療法学会福岡大会（2019）

6）研究報告

菅原洋子：「ミャンマー連邦共和国におけるシニア海外ボランティアとしての作業療法活動」
国際医療福祉大学学会誌　24（1）2019

7）その他（学位取得，資格取得，研究費）

①　学内研究費（令和元年度）

②　学位取得

③　専門作業療法士(日本作業療法士協会認定)取得

④　認定作業療法士(日本作業療法士協会認定)取得

⑤　研究費（外部資金）

北島栄二：科研費 基盤研究(C)，シルバーカーから歩行車への変更が要介護高齢者の身体活動量に及ぼす効果，18K12171

小牧　元：日本学術振興会　科学研究費基金　挑戦的萌芽研究（代表）「慢性痛の脳画像によるクラスタリングの開発：Alexithymia vs 神経症」

中薗寿人：科研費若手研究　経頭蓋交流電気刺激を用いた新しい脳可塑性誘導法の開発. H30-R4

中薗寿人：公益財団法人渡邉財団　間欠性ｼｰﾀﾊﾞｰｽﾄ刺激と経頭蓋交流電流刺激の相乗効果：新規脳刺激法の開発. 2019-2020

佐野伸之：地域在住高齢者の活動と社会参加を促す達成動機の段階に基づく支援プログラムの開発．科学研究費助成事業　（研究活動スタート支援）．2017.8-2019.8

(3)　社会活動

1)　講演会等

・丹羽　敦：広島市安佐南区「男性介護の会」講義および運営

・佐野伸之：メディカル講座「脳トレ＆健康体操で脳を錆びつかせない！」．いきいき 100 百道浜カフェ主催，2019.10.18（福岡）

2)　その他（学術大会，研修会の役員など）

・丹羽　敦：福岡県社会福祉協議会 福祉用具専門部会長、福岡市介護認定審査会 副部会長
基調講演座長，「″～人はもう一つの身体を手に入れる～あらゆる人の社会参加を可能とする分　身ロボット OriHime の可能性″」（吉藤　健太朗），53 回日本作業療法学会，2019 年 9 月 6 日

・佐野伸之：日本作業療法学会 第 5 期演題審査委員（2018 年 1 月 － 現在）

・佐野伸之：ジャーナル「作業療法・福岡」論文査読委員（2019 年 9 月 － 現在）

・佐野伸之：第 23 回福岡県作業療法学会査読委員（2019 年 7 月 － 現在）

木村まり子：社）日本感覚統合学会　認定講習会ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ、社）日本感覚統合学会代議員（R2～R4）

(4)　所属学会

・北島栄二：（一社）日本作業療法士協会

・小牧　元：日本心身医学会、日本心療内科学会、日本摂食障害学会、日本肥満症治療学会、日本自律訓練学会・日本精神神経学会・Endocrine Society(米国内分泌学会)・Academy for Eating Disorders(国摂食障害アカデミー)

・菅原洋子：日本作業療法学会　作業療法教育学会、国際リハビリテーション学会、作業科学学会

・丹羽　敦：日本作業療法学会　福岡県作業療法学会　日本リハビリテーション学校協会　日本在宅ケア学会　全国地域作業療法研究会　日本作業療法教育研究会

・多賀　誠：日本作業療法士協会、福岡県作業療法協会、国際医療福祉大学学会

・中薗寿人：日本作業療法士協会，日本臨床神経生理学会，Institute of Complex Medical Engineering (ICME)，Society for Neuroscience (SfN)，

・佐野伸之：日本作業療法士協会，福岡県作業療法士会，日本臨床作業療法学会，日本認知症ｹｱ学会

・吉田亮平：日本作業療法士協会、福岡県作業療法協会、日本医学教育学会

・木村まり子：社）日本作業療法士協会、社）福岡県作業療法協会、社）日本感覚統合学会

(5)　役員歴

・小牧　元：日本摂食障害学会理事長、日本心身医学会監事・評議員、日本自律訓練学会評議員、日本心療内科学会評議員国際交流委員、日本肥満症治療学会評議員メンタルヘルス部会委員、英文誌編集委員会委員長（*BioPsychoSocial Medicine Editor-in-Chief*）、厚生労働省、全国摂食障害対策連絡協議会　協議会委員

・丹羽　敦：福岡県作業療法協会理事、福岡県社会福祉協議会 福祉用具専門部会長、福岡市介護認定審査会 副部会長、広島県作業療法学会長、日本作業療法協会 教育部 養成教育委員会 副委員長（現）

・多賀　誠：特定非営利活動法人とびら　理事（放課後等デイサービス事業所ばんび，就労移行支援施設ディアディア，就労継続支援 B 型施設フリースペースみなみ）

(6)　その他

・丹羽　敦：ＪＩＣＡ（国際協力事業団）の「中国ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門職養成ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」中国ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ研究ｾﾝﾀｰ（北京市）に勤務　作業療法専門家（H.13.11～H14.5）プロジェクトリーダー（H18.6～H18.8）

・多賀　誠：国際医療福祉大学・国際医療福祉大学大学院　非常勤講師

8.4　視能訓練学科

(1)教員紹介

2019 年度教員：吉冨健志（教授・学科長）

財津裕一（教授：公衆衛生）、森　望（教授：解剖学、老年学、）宇野宏一（准教授：眼科）
橋本勇希（准教授）、佐々木信（講師）、志岐早苗（助教：英語）、王美蘭（助教：中国語）
Faramarz Samifanni（助教：英語）

2020 年度教員：吉冨健志（教授・学科長）

飛松省三（教授：生理学）、財津裕一（教授：公衆衛生）、森　望（教授：解剖学、老年学、）
堀川悦夫（教授：老年学）、宇野宏一（准教授：眼科）橋本勇希（准教授）、松藤佳名子（准教授）、
佐々木信（講師）、潮井川修一（助教）、志岐早苗（助教：英語）、王美蘭（助教：中国語）
Faramarz Samifanni（助教:英語）

1）吉冨　健志　学科長　MD, PhD

担当科目：視器解剖病態学、視覚生理学、リハビリテーション概論、視能障害学
研究内容：視覚障害者の生活に関する研究、緑内障、神経眼科
著書論文：自律神経系：神経眼科　中山書店
Double reciprocal innervations in the dog iris sphincter and dilator muscles.
Invest Ophthalmol Vis Sci. 1986; 27: 83 – 91
学　　歴：学士：九州大学医学部
博士：九州大学大学院医学研究科
職　　歴：九州大学医学部付属病院
米国 Yale 大学 Research Associate）
北里大学医学部眼科
和歌山県立医科大学眼科助教授
秋田大学医学部付属病院眼科
資　　格：医師（日本眼科学会認定眼科専門医，指導医）、視覚障害者用補装具適合判定医師
役 員 歴：日本眼科学会常務理事、日本緑内障学会監事、日本神経眼科学会理事
日本視野画像学会理事、日本眼薬理学会理事、日本自律神経学会評議員

2）橋本　勇希　准教授　ORT, PhD

担当科目：視機能概論、視能検査学
研究内容：網膜画像分野
著書論文：Comparison of clinical characteristics in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease with and without anti-retinal antibodies. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 257 (8): 1751-1758, 2020
学　　歴：学士：川崎医療福祉大学感覚矯正学科
修士：川崎医療福祉大学大学院
博士：北海道大学大学院医学研究院
職　　歴：北海道大学病院眼科
資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定視能訓練士
役 員 歴：該当なし

3）松藤　佳名子　准教授　ORT, MA

担当科目：弱視斜視論、視能訓練学
研究内容：斜視、弱視、空間知覚
著書論文：半側空間無視患者におけるプリズム順応過程の詳細. 日本視能訓練士協会誌 46：265 - 273, 2017.
学　　歴：学士：東洋大学文学部教育学科
修士：熊本大学大学院文学研究科
川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科博士課程満期退学

国立小児病院附属属視能訓練学院
職　　歴：熊本大学医学部附属病院眼科
健康保険組合人吉総合病院眼科
福岡大学病院眼科
福岡国際医療福祉学院視機能療法学科学科長
資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員
役 員 歴：日本視能訓練士協会専任教員等養成委員会委員、全国視能訓練士学校協会理事

4) 佐々木　信　講師　ORT, PhD
担当科目：視能検査学、弱視斜視論、視能訓練学
研究内容：弱視の検査・訓練・治療法の開発
著書論文：Properties of new diffusion filters for treatment of amblyopia with accurate occlusive effects, Graefe's Archive for Clinical and Experimental Ophthalmology 254(6):1181-1187, 2016.
特許取得：視力調整用シートおよびその製造方法　特許第 6202294 号,2017.
学　　歴：学士：近畿大学九州工学部経営工学科
学士：独立行政法人大学評価学位授与機構
修士：北九州市立大学大学院人間文化研究科
博士：産業医科大学大学院医学研究科
福岡国際医療福祉学院視機能療法学科
職　　歴：医療法人彦星会ふなつ眼科光分院田中眼科
医療法人社団青木眼科
福岡国際医療福祉学院視機能療法学科専任教員
医療法人高邦会高木病院非常勤
産業医科大学眼科学教室訪問研究員
資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定視能訓練士
役 員 歴：該当なし

5) 潮井川　修一　助教　ORT, MS
担当科目：視能検査学入門、関連職種連携論、生理光学Ⅲ、ロービジョン学ほか
研究内容：視線解析に関する研究
著書論文：大学バレーボール選手におけるスポーツビジョントレーニングの効果 2011 年 柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要 7, p14-21（共著）
モノビジョンにおける読みの視線解析の検討　日本眼科学会誌 117 巻臨時増刊号 p382 2013（共著）
学　　歴：福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科
修士：国際医療福祉大学大学院　保健医療学専攻　視機能療法学分野
職　　歴：医療法人大塚眼科医院
福岡国際医療福祉学院 視機能療法学科専任教員
資　　格：視能訓練士、日本視能訓練士協会認定専任教員、MWT ビジョントレーニング指導者
役 員 歴：該当なし

視能訓練士以外
1) 吉冨　健志　学科長　MD, PhD

6) 飛松　省三　教授 MD, PhD
担当科目：神経学、生理学実習
研究内容：臨床神経生理学, システム神経科学
著書論文：脳機能イメージングによる視覚機能測定法. 日本視覚学会 (編): 視覚情報処理ハンドブッ

ク,朝倉書店, pp. 598-606, 東京, 2000.（共著）

Tobimatsu S & Kakigi R (eds.): Clinical Applications of Magnetoencephalography. Springer, Germany, 2016.

ベッドサイドの臨床神経生理学. 中外医学社, 2017.

学　　歴：学士：九州大学医学部
博士：九州大学　医学博士

職　　歴：九州大学医学部付属病院
シカゴ・ロヨラ大学医学部神経内科
九州大学医学部
九州大学大学院医学研究院

資　　格：医師（日本神経学会専門医）

役 員 歴：日本臨床脳磁図コンソーシアム代表世話人、日本臨床神経性理学会理事長、国際複合医工学会理事長、認知神経科学会理事、日本てんかん学会理事、日本生体磁気学会監事、日本神経学会代議員、日本ヒト脳機能マッピング学会（運営委員）

7) 財津　裕一　教授　MD, PhD

担当科目：社会保障論、保健医療福祉論、医学総論、公衆衛生学

研究内容：小児期からの生活習慣病対策、社会状況の変化と感染症対策

著書論文：Zaitsu, H., and Kimura, G. (1988) Simian virus 40 compensates a cellular mutational defect of a serum-dependent function controlling cell cycle progression in the G2 phase. Virology, 164:165-170.

Zaitsu, H., and Serrero, G. (1991) Adipogenic activity produced by hepatocyte-derived cell lines and by normal hepatocytes in primary culture. J. Cell. Physiol., 149:339-346.

これからの母子保健活動：子どもの健康づくり.　地域保健, 1996；27(6)：62-68。

医師臨床研修における保健所研修のあり方. 日本医事新報　2003；4156：57-60

学　　歴：学士：九州大学医学部
医学博士：九州大学

職　　歴：九州大学医学部小児科助手
米国W.A.J. Cell Science Center Research Fellow
福岡県筑紫保健福祉環境事務所所長

資　　格：医師（産業医、小児科専門医）

8) 森　望　教授　PhD

担当科目：解剖学、生理学、薬理学

研究内容：脳の老化と寿命制御、視神経再生

著書論文：Baba S. et al., Involvement of the neuronal phosphotyrosine signal adaptor N-Shc in kainic acid-induced epileptiform activity, Sci. Rep., Jun 8; 6:27511(2016)

Mori, N, Mook-Jung, I, “Aging Mechanisms: Longevity, Metabolism, and Brain Aging “(eds.), Springer (2015)

『網膜・視神経の発生と再生』Molecular Medicine 39　(分担執筆) (2002)

学　　歴：学士：東京大学薬学部
博士：東京大学大学院薬学系研究科

職　　歴：東邦大学薬学部助手
米国シティーオブホープ研究所
米国カリフォルニア工科大学研究員
米国ハワードヒューズ医学研究所上級研究員

米国南カリフォルニア大学アンドラス老年学研究所助教授
国立長寿医療研究センター（分子遺伝学研究部）部長
名城大学大学院総合学術研究科特任教授
科学技術振興機構「脳を守る」戦略研究代表者
長崎大学医学部教授（第一解剖）
長崎大学附属図書館長

資　　格：

役 員 歴：日本基礎老化学会理事、日本老年学会理事、国際放射線神経生物学会、（ISRN）理事、日本神経化学会評議員、日本生化学会評議員、長崎メンタルヘルス研究会理事、脳の医学生物学研究会会長など

9) 堀川　悦夫　教授　CP, DRS, PhD

担当科目：心理学、老年学、臨床心理学、カウンセリング論

研究内容：認知神経心理学、視覚・認知・モビリティ研究、運転リハビリテーション

著書論文：The neural correlates of driving performance identified using positron emission tomography, Brain and Cognition, 58, No.2, 166-171　2005.
高齢者における運転可否判断と運転技能の評価法、（池田学/上村直人編著）臨床医のための高齢者と認知症の自動車運転, 2-17, 2018 年

学　　歴：学士：東北福祉大学社会福祉学部福祉心理学科
修士：愛知学院大学大学院文学研究科
博士：東北大学大学院情報科学研究科
博士：東北大学大学院医学系研究科

職　　歴：日本学術振興会特別研究員
東北福祉大学助手
東北大学医療技術短期大学部助教授
文部科学省在外研究員
Mobility Research Lab. GeriatricCenter, Univ. of Michigan, Visiting Scholar
東北大学医学部助教授
佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センター 認知神経心理学分野教授
佐賀大学大学院医学系研究科教授
佐賀大学医学部附属病院　動作解析・移動支援開発センター長
（公財）交通事故総合分析センター客員研究員、特別研究員
佐賀大学医学部脳神経内科客員研究員

資　　格：公認心理師、臨床心理士、介護福祉士、ジョブコーチ（厚労省）

役 員 歴：佐賀中部地区福祉有償運送協議会会長、佐賀県高次脳機能障害者支援委員会委員、日本安全運転医療研究会世話人

10) 宇野　宏一　准教授　MD, PhD

担当科目：視能障害学

研究内容：網膜硝子体疾患

著書論文：Role of Nrf2 in retinal vascular development and the vaso-obliterative phase of oxygen-induced retinopathy. Experimental Eye Research 2010 90(4): 493-500

学　　歴：学士：福岡大学医学部
博士：福岡大学大学院

職　　歴：福岡大学病院眼科
Wilmer Eye Institute, The Johns Hopkins University School of Medicine
福岡山王病院眼科副部長

資　　格：医師（日本眼科学会認定眼科専門医）

役 員 歴：

11）王　美蘭　助教　MA, PhD
担当科目：中国語、法学、海外保健福祉事情
研究内容：企業結合法制の比較の研究
著書論文：資金調達と投資者保護-日中法律規制の比較、企業結合法制の比較法的研究―日本、アメリカ、中国
学　　歴：学士：中国政法大学経済法学部
修士：神戸大学大学院法学研究科
博士：神戸大学大学院法学研究科
職　　歴：神戸国際貿易促進協会高級顧問、甲南女子大学、兵庫県立大学、
関西看護医療大学非常勤講師、朝日新聞カルチャーセンター講座講師
資　　格：福岡地方裁判所司法通訳登録
役 員 歴：

12）志岐　早苗　助教　MA, PhD
担当科目：医学英語Ⅰ、英語（応用）コミュニケーション概論
研究内容：対人コミュニケーション、恋愛コミュニケーション
著書論文：恋愛解消時における「リベンジ」と「締めくくり」に関する考察
2017年9月 九州コミュニケーション研究 第15号
学　　歴：学士：University of Wisconsin-Madison, School of Human Ecology（理学士）
修士：西南学院大学大学院 文学研究科 英文学専攻 コミュニケーション学専修
博士：西南学院大学大学院 文学研究科 英文学専攻 コミュニケーション学専修
職　　歴：福岡国際医療福祉学院非常勤
九州産業大学、久留米大学
資　　格：
役 員 歴：

13）Faramarz Samifanni　助教 M.A.E.d., Ed.D.
担当科目：英語、英会話
研究内容：新しい言語の学習法
著書論文：The Fluency Way: A Functional Method for Oral Communication English Language Teaching, 2020,13(3), 100-114
THE KEY INTO LEARNING A NEW LANGUAGE: DO NOT JUST TEACH THE LANGUAGE, LOCALIZE FIRST. European Journal of Education Studies, 2020,7(2), 351-363
学　　歴：学士：Trent University, Ontario, Canada　社会学
修士：Cebu Normal University, Cebu, Philippines 英語教授法(ELT)
博士：Cebu Normal University, Cebu, Philippines 英語教授法(ELT)
博士：Cebu Normal University, Cebu, Philippines 教育管理
職　　歴：上武大学、桐生高等専門学校、日赤看護専門学校　非常勤
群馬大学、群馬警察通訳、福岡警察通訳
資　　格：私立中高等学校教員（広島、長崎）
役 員 歴：Nihon International Communication Education (NICE) Language Research Center
創設者・ディレクター
Journal of Physical Therapy Science 査読委員

(2)　研究活動（2019年度）
1)　著書
・吉冨健志.　瞳孔作用薬.：大鹿哲郎（編集主幹）　園田康平，近藤峰生，稲谷　大（編集）．眼科学　第3版　文光堂，1046-1048，2020.
・橋本勇希．黄斑疾患 点状脈絡膜内層症（PIC）．大鹿哲郎（監修）近藤峰生，辻川明孝（編集），後眼部アトラス．総合医学社，176-177．2019

・橋本勇希．黄斑疾患 汎ぶどう膜炎を伴う多巣性脈絡膜炎（MCP）．大鹿哲郎（監修）近藤峰生，辻川明孝（編集），後眼部アトラス．総合医学社，176-177．2019
・橋本勇希．OCT の撮りセツ 読影の注意点～おっと危ない！3 つの落とし穴～．眼科ケア．メディカ出版，58-67．2019
・橋本勇希．加齢黄斑変性の疑いがある患者さんへの検査．眼科ケア．メディカ出版，64-71．2019
・橋本勇希，齋藤航，石田晋．ルチモダルイメージング～AZOOR 類縁疾患～．RETINA Medicine．先端医学社，55-62．2019
・松藤佳名子．プリズムアダプテーション療法．種村純（編集），やさしい高次脳機能障害用語辞典．ぱーそん書房，528‐529．2019.
・飛松省三、有村公良：ここからはじめる！神経伝導検査・筋電図ナビ，南山堂，2019.
・飛松省三、重藤寛史：脳波の行間を読む デジタル脳波判読術，南山堂，2019.
・加藤元博，飛松省三：脳波の発生機序 解剖と生理．モノグラフ 臨床脳波を基礎から学ぶ人のために．第 2 版，日本臨床神経生理学会(編)，診断と治療社，pp. 2-10，東京，2019.
・飛松省三：脳波の導出法．モノグラフ 臨床脳波を基礎から学ぶ人のために．第 2 版，日本臨神経生理学会(編)，診断と治療社，pp. 37-46，東京，2019.
・飛松省三（統括委員）：誘発電位測定マニュアル 2019．日本臨床神経生理学会(編)，診断と治療社，pp. 37-46，東京，2019.

2) 原著

・Oshima T, Yoshikawa H, Yoshitomi T, Ohtani M, S. Mimasaka. Case of Personal Identification Via Postmortem Computed Tomography Confirmation of Aphakic Eyes. The American journal of forensic medicine and pathology. 41(1):60 - 63, 2020.
・Ishikawa M, Takaseki S, Yoshitomi T, Covey DF, Zorumski CF, Izumi Y. The neurosteroid allopregnanolone protects retinal neurons by effects on autophagy and GABRs/GABAA receptors in rat glaucoma models. Autophagy: 1-18, 2020.
・Fujiwara K, Yasuda M, Hata J, Yoshida D, Kishimoto H, Hashimoto S, Yoshitomi T. Ninomiya T, Sonoda K. Long-term regular exercise and intraocular pressure: the Hisayama Study. Graefe's archive for clinical and experimental ophthalmology. 257(11): 2461 - 2469, 2019.
・Fujiwara K, Yasuda M, Hata J, Hirakawa Y, Hashimoto S, Ueda E, Iwase A, Araie M, Yoshitomi T, Ninomiya T, Sonoda K. Glucose Tolerance Levels and Circumpapillary Retinal Nerve Fiber Layer Thickness in a General Japanese Population: The Hisayama Study. American journal of ophthalmology . 205: 140 - 146, 2019.
・Dong YR, Gustafson CE, Wang J, Cui JZ, Yoshitomi T. Remodeled structure and reduced contractile responsiveness of ocular ciliary artery in spontaneously hypertensive rats. International journal of ophthalmology . 12(3): 363 - 368, 2019.
・Sakata R, Yoshitomi T, Iwase A, Matsumoto C, Higashide T, Shirakashi M, Aihara M, SugiyamaK, Araie M. Factors Associated with Progression of Japanese Open-Angle Glaucoma with Lower Normal Intraocular Pressure. Ophthalmology. 126(8): 1107 - 1116, 2019.
・Saito W, Hashimoto Y, Kiriko Hirooka, Susumu Ishida. Changes in choroidal blood flow velocity in patients diagnosed with central serous chorioretinopathy during follow-up for pachychoroid pigment epitheliopathy. Am J Ophthalmol Case Rep. in press
・Hasegawa Y, Hashimoto Y, Shinmei Y, Ishida S. Optic nerve head microcirculation in congenital nasal optic disc hypoplasia. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 258: 211-213, 2020
・Saito M, Noda K, Saito W, Hirooka K, Hashimoto Y, Ishida S. Increased choroidal blood flow and choroidal thickness in patients with hypertensive chorioretinopathy. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 258: 233-240, 2020
・Shinkai A, Saito W, Hashimoto Y, Ishida S. Improvements in visual acuity and macular morphology following cessation of anti-estrogen drugs in a patient with anti-estrogen maculopathy resembling macular telangiectasia type 2: a pathogenic hypothesis. BMC Ophthalmol 19: 267,

2019

- Hashimoto Y, Saito W, Saito M, Hasegawa Y, Ishida S. Increased thickness and decreased blood flow velocity of the choroid in a patient with acute macular neuroretinopathy. BMC Ophthalmol 19: 109, 2019
- Hashimoto Y, Saito W, Namba K, Mizuuchi K, Iwata D, Noda K, Kanda A, Ishida S. Comparison of clinical characteristics in patients with Vogt-Koyanagi-Harada disease with and without anti-retinal antibodies. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.* 257: 1751-1758, 2019
- Hashimoto Y, Saito W, Hasegawa Y, Noda K, Ishida S. Involvement of inner choroidal layer in choroidal thinning during regression of multiple evanescent white dot syndrome. J Ophthalmol. 2019; 6816925,2019.
- Kikuchi I, Kase S, Hashimoto Y, Hirooka K, Ishida S. Involvement of circulatory disturbance in optic disc melanocytoma with visual dysfunction. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 257: 835-841, 2019.
- Barcelon EA, Mukaino T, Yokoyama Y, Uehara T, Ogata K, Kira J-I, Tobimatsu S. Grandtotal EEG score can differentiate Parkinson’s disease from Parkinson-related disorders. Front Neurol, 18 April 2019. doi.org/10.3389/fneur.2019.00398
- Hayashi R, Ogata K, Nakazono H, Tobimatsu S: Modified ischemic nerve block of the forearm:use for the induction of cortical plasticity in distal hand muscles. J Physiol, 597(13): 3249-3503, 2019.
- Yamasaki T, Aso T, Kaseda Y, Mimori Y, Doi H, Matsuoka N, Takamiya N, Torii T, Takahashi T, Ohshita T, Yamashita H, Doi H, Inamizu S, Chatani H, Tobimatsu S: Decreased stimulus-driven connectivity of the primary visual cortex during visual motion stimulation in amnestic mild cognitive impairment: An fMRI study. Neurosci Lett, 711, 15 October 2019.
- Ogata K, Nakazono H, Uehara T, Tobimatsu S: Prestimulus cortical EEG oscillations canpredict the excitability of the primary motor cortex. Brain Stimul, 12 (6):1508-1516. 2019.
- Mitsudo H, Hironaga N, Ogata K, Tobimatsu S: Vertical size disparity induces enhancedneural responses in good stereo observers. Vision Res, 164 (1):24-33, 2019.
- 後藤和彦、杉　剛直、池田拓郎、山崎貴男、飛松省三、後藤純信: 運動知覚への両眼視差刺激の影響：視覚誘発電位を用いた検討. 臨床神経生理学, 47(6): 509-518, 2019
- Matsubara T, Hironaga N, Uehara T,Chatani H, Tobimatsu S, Kishida K: A novel method forextracting interictal epileptiform discharges in multi-channel MEG: Use of fractional type of blind source separation. Clin Neurophysiol, 131(3):425-436, 2020.
- Nakazono H, Ogata K, Takeda A, Yamada E, Kimura T, Tobimatsu S: Transcranialalternating current stimulation of α but not β frequency sharpens multiple visual functions. Brain Stimul, 13(2):343-352, 2020.
- Inamizu S, Yamada E, Ogata K, Uehara T, Kira J-I, Tobimatsu S: Neuromagnetic correlatesof hemispheric specialization for face and word recognition. Neurosci Res, In press.
- Komatsu S, Yamada E, Ogata K, Horie S, Hakoda Y, Tobimatsu S: Facial identity influencesfacial expression recognition: A high-density ERP study. Neurosci Lett, In press.
- Takamiya N, Maekawa T, Yamasaki T, Ogata K, Yamada E, Tanaka M, Tobimatsu S:Different hemispheric specialization for face/word recognition: A high-density ERP study with hemifield visual stimulation. Brain Behav, in press.
- Shinichiro Ishi, Etsuo Horikawa, "The Emotional Intelligence of Japanese Mental Health

Nurses Frontiers in Psychology 10:2004 DOI: 10.3389/fpsyg.2019.02004, August 2019″・
・Mitsutake T, Sakamoto M, Horikawa E: The effects of electromyography-triggered neuromuscular electrical stimulation plus tilt sensor functional electrical stimulation training on gait performance in patients with subacute stroke: a randomized controlled pilot trial. Int J Rehabil Res. 2(4):358-364, 2019.
・Iwasaka C, Sakamoto M, Mitsutake T, Horikawa E: Effects of a water-based exercise program on disability prevention in older Japanese adults. Geriatr Gerontol Int. 19(12):1282-1288, 2019
・Mitsutake T, Sakamoto M, Ueta K, Horikawa E: Standing postural stability during galvanic vestibular stimulation is associated with the motor function of the hemiplegic lower extremity post-stroke. Top Stroke Rehabil. 27(2):110-117, 2020
・森望　脳・神経の老化：遺伝子発現の精度と統括因子からみる老化脳制御、YAKUGAKU ZASSHI 140, 395-404 (2020)

3)　総説
・澤田　有、吉冨健志 (2019) “篩状板の評価”　緑内障診断のための OCT 読影, 眼科. 61(4) 33-41.
・飛松省三: てんかんと脳波. 日本医師会雑誌, 148(9): 1712-1716, 2019.
・飛松省三: 脳を診る: 並列的視覚情報処理の基礎と疾患への応用. 認知神経科学, 21(3・4): 179-187, 2019.
・Tobimatsu S: Neuromagnetic oscillations in the human sensory systems: A mini review of our series and literature. Neurosci Res, in press.
・Tobimatsu S: Understanding cortical pain perception in humans. Neurol Clin Neurosci, in press.
・森望　大野乾 (1928-2000)：洞察の巨人・論考の達人、生体の科学 70 (5), 368-369 (2019)
・森望　老いの遍歴、基礎老化研究 43 (3), 11-14 (2019)
・森望　タウオパチー細胞モデルの樹立：マウス培養細胞におけるタウフィブリル形成、未病と抗老化 28, 106 (2019)

4) 講演 (学会, 研究会, 分科会, シンポジウム等の講演)
・吉冨健志：薬理学から見た緑内障治療薬. 第 89 回九州眼科学会. ホルトホール大分. 2019 年 5 月 31 日.
・橋本勇希：Acute macular neuroretinopathy の脈絡膜循環と形態の経時変化. 第 10 回レーザースペックル研究会, 2019, 東京.
・橋本勇希：SLT の医療の現場～患者さんにとって SLT とは～ 緑内障患者×コミュニケーション. 第 123 回日本眼科学会総会, 2019, 東京.
・飛松省三:③ アーチファクトの判別. 第 527 回福岡臨床と脳波懇話会, 2019 年 4 月 17 日, 福岡 (ミニレクチャ).
・飛松省三:④ 優位律動の見方とその意義. 第 528 回福岡臨床と脳波懇話会, 2019 年 5 月 15 日, 福岡(ミニレクチャ).
・Tobimatsu S: Clinical Neurophysiology: The State-of-the-Art Applications. China Medical College, May 23, 2019, Taichung, Taiwan (Special lecture)
・飛松省三:⑤ 徐波の見方とその意義. 第 529 回福岡臨床と脳波懇話会, 2019 年 6 月 19 日, 福岡
・飛松省三:脳を診る: 並列的視覚情報処理の基礎と疾患への応用. 第 24 回認知神経科学会. 東京, 2019 年 7 月 14 日. 特別講演.
・飛松省三:症例から学ぶ臨床神経生理. 第 31 回臨床神経生理研究会. 福岡, 2019 年 8 月 10 日. 特別講演.
・飛松省三:⑥ てんかんと脳波. 第 530 回福岡臨床と脳波懇話会, 2019 年 9 月 18 日, 福岡(ミニレクチャ)
・飛松省三:⑦ 正常亜型. 第 531 回福岡臨床と脳波懇話会, 2019 年 10 月 16 日, 福岡(ミニレクチャ)
・飛松省三:⑧ 意識障害と脳波. 第 532 回福岡臨床と脳波懇話会, 2019 年 11 月 20 日, 福岡(ミニレクチャ)
・飛松省三:幻視の生理学的機序. 第 11 回福岡パーキンソン病アーベント. 2019 年 11 月 22 日. 特別講演.

・飛松省三:誘発電位検査: up-to-date. 第49回日本臨床神経生理学会, 2019年11月28日, 福島.(教育講演)
・飛松省三:⑨変性疾患と脳波.第533回福岡臨床と脳波懇話会, 2019年12月18日, 福岡(ミニレクチャ)
・飛松省三:痛み受容の脳内機構. 第38回九州ペインクリニック学会, 2020年2月15日, 福岡(特別講演)
・飛松省三:腕試し. 第535回福岡臨床と脳波懇話会, 2020年2月19日, 福岡.(ミニレクチャ)
・森望：神経特異的分子からみた老化と寿命の制御、群馬大学医学部大学院セミナー Jan 14 (2020)
・森望：脳科学から探る人間性、群馬大学全学教育セミナー Jan 15 (2020)
・堀川悦夫：高齢者の運転可否判断、高知認知症ケア研究会　2019

5) 学会発表

・Hashimoto Y, Saito W, Saito M, Hasegawa Y, Yoshitomi T, Ishida S. Increased thickness and decreased blood flow of the choroid in a patient with acute macular neuroretinopathy. Global Ocular Inflammation Workshops 2019, 2019, Sapporo.
・橋本勇希、齋藤航、長谷川裕香、齋藤理幸、野田航介、吉冨健志、石田晋. 発症前後の脈絡膜形態と発症後の脈絡膜血流が観察できたacute macular neuroretionpathyの1例. 第36回九州視機能研究会, 2019, 福岡.
・橋本勇希、齋藤航、長谷川裕香、滝田亜かり、野田航介、吉冨健志、石田晋.小児と成人のacute macular neuroretinopathyにおける網脈絡膜形態の比較. 第44回日本小児眼科学会, 2019, 浜松.
・橋本勇希、齋藤航、長谷川裕香、滝田亜かり、野田航介、吉冨健志、石田晋. 多発消失性白点症候群における病変部と正常部の脈絡膜厚の比較. 第89回九州眼科学会, 2019, 大分.
・新海晃弘、齋藤航、橋本勇希、齋藤理幸、野田航介、石田晋. 黄斑部毛細血管拡張症type 2患者の黄斑部脈絡膜厚評価. 第58回日本網膜硝子体学会, 2019, 長崎.
・金子悠菜、橋本勇希、齋藤理幸、山下結衣、廣岡季里子、野田航介、石田晋. 妊娠後期に発症した中心性漿液性脈絡網膜症の1例における脈絡膜循環動態と形態の変化.第60回日本視能矯正学会, 2019, 福岡.
・山下結衣、橋本勇希、齋藤理幸、金子悠菜、廣岡季里子、野田航介、石田晋. 妊娠に伴う高血圧脈絡膜症の1例における脈絡膜循環動態と形態の経時変化. 第60回日本視能矯正学会, 2019, 福岡.
・大田翔一郎、齋藤理幸、鈴木智浩、清水啓史、橋本勇希、加瀬諭、野田航介、石田晋. 脈絡膜瘢痕病巣を生じた急性特発性黄斑症の一例. 第166回北海道眼科集談会, 2019, 札幌.
・金子悠菜、橋本勇希、齋藤理幸、山下結衣、廣岡季里子、野田航介、石田晋. 妊娠後期に発症した中心性漿液性脈絡網膜症の1例における脈絡膜循環動態と形態の変化.第166回北海道眼科集談会, 2019, 札幌.
・山下結衣、橋本勇希、齋藤理幸、金子悠菜、廣岡季里子、野田航介、石田晋. 妊娠に伴う高血圧脈絡膜症の1例における脈絡膜循環動態と形態の経時変化.第166回北海道眼科集談会, 2019, 札幌.
・大田翔一郎、齋藤理幸、鈴木智浩、清水啓史、橋本勇希、加瀬諭、野田航介、石田晋. 脈絡膜瘢痕病巣を生じた急性特発性黄斑症の一例. 第58回日本網膜硝子体学会, 2019, 長崎
・後沢誠、高村佳弘、山田雄貴、野田航介、橋本勇希、盛岡正和、松村健大、稲谷大. 糖尿病黄斑浮腫における毛細血管瘤とcapillary dropoutの分布に関する解析.第25回日本糖尿病眼学会, 2019, 大阪.
・新海晃弘、齋藤航、橋本勇希、野田航介、石田晋. 自然寛解した黄斑部毛細血管拡張症type 2の1例. 第36回日本眼循環学会, 2019, 札幌.
・廣岡季里子、南場研一、山下結衣、水内一臣、岩田大樹、橋本勇希、石田晋. 視神経乳頭循環動態の経時変化が観察できた原田病に前部虚血性視神経症を合併した1例. 第53回日本眼炎症学会, 2019, 京都.
・廣岡季里子、安藤亮、橋本勇希、長谷川裕香、柴田有紀子、福津佳苗、鈴木佳代、水内一臣、中村佳代子、溝口亜矢子、石田晋. 小児眼における光干渉断層計を用いた固視検査の有用性. 第 44 回日本小児眼科学会, 2019, 浜松.
・新海晃弘、齋藤航、橋本勇希、野田航介、石田晋. トレミフェン内服中止後に視機能が改善した黄斑部毛細血管拡張症type 2の1例. 第123回日本眼科学会総会, 2019, 東京.

・Satoru Kase, Kousuke Noda, Kiriko Hirooka, Yuki Hashimoto, Susumu Ishida. Choroidal circulation in radiation retinopathy. The Retina Society 2019, 2019, London.

・佐々木信. 試作したlogMAR視力表を用いた視力と両眼加重の関係. 第60回日本視能矯正学会, 2019, 福岡.

・潮井川修一, 松藤佳名子, 石川智絵. 学生生活の影響によるクラス集団の特性変化について. 第36回九州視機能研究会, 2019, 福岡.

・石川　誠, 柴田直弥, 吉冨健志, Zorumski Charles, 和泉幸俊 Protective effects of tamoxifen against rat glaucoma model 第123回日本眼科学会総会, 2019年4月20日, 東京国際フォーラム

・澤田　有, 柴田　瞳, 石川　誠, 吉冨健志, 新家　眞. 視神経乳頭中心および Bruch 膜開口部中心で測定した乳頭周囲網膜神経線維層厚の比較. 第123回日本眼科学会総会, 2019年4月21日, 東京国際フォーラム.

・澤田　有, 柴田　瞳, 石川　誠, 吉冨健志, 新家　眞(2019)緑内障眼における視神経乳頭前部強膜輪の拡大第73回日本臨床眼科学会, 2019年10月25日, 京都国際会館.

・Uehara T, Mukaino T, Yokoyama J, Okadome T, Mukae N, Sakata A, Kira J-I, Tobimatsu S: Importance of resting-state functional connectivity in propagation of focal seizures. 33rd International Epilepsy Congress, June 26, Bangkok, Thailand.

・Taniguchi N, Hironaga N, Tobimatsu S: Prior cognitive information differentially modulates the insula activities during pain and tactile processing. The 11th Congress of he European Pain Federation, September 4, 2019.

・Yamasaki T, Aso T, Kaseda Y, Mimori Y, Doi H, Matsuoka N, Takamiya N, Torii T, Takahashi

・T, Ohshita T, Yamashita H, Doi H, Inamizu S, Chatani H, Tobimatsu S: Altered oscillatory V1 activity to motion perception in patients with mild cognitive impairment: An fMRI study. The 13th CME International Conference on Complex Medical Engineering. September 23, 2019, Dortmund, Germany.

・森望:脳科学からみる人工知能:AIは脳を超えるか？　第１３回医療情報学会九州・沖縄支部会 Jan 12 (2019)

・森望：遺伝子発現と蛋白質凝集からみる老化脳制御、第139回日本薬学会シンポジウム、幕張メッセ、March 20-13 (2019)

・Mori, N, Gene regulatory elements emerged behind the evolving intelligence and longevity, Special symposium in commemoration of Dr. Susumu Ohno after 20 years of his passing: Evolution, Reproduction, and Immune Recognition, Nihon University, March 12-13 (2020) (On print-presentation due to Covid-19 influence)

6) 研究報告

7) その他（学位取得，資格取得，研究費）

① 学内研究費（2019年度）

佐々木信：一般研究Ａ（一般）弱視治療用眼鏡箔の開発

② 研究費（外部資金）

石川 誠, 吉冨 健志. 神経ステロイドのオートファジー活性化作用を介した緑内障性視神経症の抑制効果. 日本学術振興会　科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2018 - 2021年

澤田 有, 吉冨 健志. 近視性視神経乳頭変形が緑内障に与える影響. 日本学術振興会　科学研究費助成事業 基盤研究(C) . 2017 - 2020年

飛松省三: 先端的脳機能計測によるヒューマンネイチャー解明. 科学研究費 新学術研究(オシロロジー)計画研究. 2015～2019

(3) 社会活動

1) 講演会等

・橋本勇希. スマホを使った、目からウロコな新感覚企画！ - OCTの３つの基礎知識 - . 第１回視能訓練士スキルアップセミナー, 2020, 福岡.

・橋本勇希．必見！網膜画像から疾患が紐解かれる瞬間～4 人の有志がガチンコ大勝負。あなたはこの結末に目が離せない…～．第 11 回 LEADER in Sapporo，2019，札幌.
・橋本勇希．私が歩む網膜分野の臨床研究道～視能訓練士として北大で学位を取って～．AMD Clinical Seminar in Kurume，2019，久留米.
・橋本勇希．片眼性の滲出性網膜剥離．第 4 回北海道黄斑診療懇話会，2019，札幌
・橋本勇希．今、OCT でみる、脈絡膜が、アツい．福島県眼科コメディカルセミナー，2019，郡山.
・橋本勇希．視能訓練士の活動領域と視能訓練士教育の最前線．福岡国際医療福祉大学視能訓練士セミナー，2019，福岡.
・橋本勇希．誰のために、何の仕事がしたいですか？～私が視能訓練士になって思うこと～．杉森高等学校普通科医療系進学コース第 2 回体験入学，2019，福岡.

2) その他（学術大会，研修会の役員など）
・森望：最新研究情報、Aging & Health 長寿科学振興財団の広報紙（年４回）
・森望：いしきりさんのすこやか通信、石切劔箭神社の広報紙（年４回）
・森望：客員研究員通信、未病と抗老化、博慈会老人病研究所紀要（年１回）

(4) 所属学会
・吉冨　健志：日本眼科学会、日本緑内障学会、日本神経眼科学会、日本視野画像学会、日本眼薬理学会、日本自律神経学会、American Academy of Ophthalmology
・橋本　勇希：日本眼科学会、日本小児眼科学会、日本臨床視覚電気生理学会、日本視能訓練士協会、日本網膜硝子体学会、日本視野学会、日本眼循環学会
・松藤佳名子：日本視能訓練士協会、日本弱視斜視学会、日本視覚学会、日本神経眼科学会、日本高次脳機能障害学会、川崎医療福祉学会
・佐々木　信：日本視能訓練士協会、日本眼科学会、日本弱視斜視学会、日本視覚学会、日本神経眼科学会、九州心理学会
・潮井川修一：日本視能訓練士協会、日本視覚学会、九州視機能研究会
・宇野　宏一：日本眼科学会

(5) 役員歴
・吉冨　健志：日本眼科学会常務理事、日本緑内障学会監事、日本神経眼科学会理事、日本視野画像学会理事日本眼薬理学会理事、日本自律神経学会評議員
・松藤佳名子：日本視能訓練士協会専任教員等養成委員会委員、全国視能訓練士学校協会理事
・飛松　省三：日本臨床脳磁図コンソーシアム代表世話人、日本臨床神経性理学会理事長、国際複合医工学会理事長、認知神経科学会理事、日本てんかん学会理事、日本生体磁気学会監事、日本神経学会代議員
・森　　望　：日本基礎老化学会理事、日本老年学会理事、国際放射線神経生物学会、（ISRN）理事、日本神経化学会評議員、日本生化学会評議員、長崎メンタルヘルス研究会理事、脳の医学生物学研究会会長
・堀川　悦夫：佐賀中部地区福祉有償運送協議会会長、佐賀県高次脳機能障害者支援委員会委員、日本安全運転医療研究会世話人

(6) その他

8.5　言語聴覚専攻科

(1) 教員紹介

2019 年度教員：平島ユイ子（教授・専攻長）
吉永明史（助教））、豊嶋明子（助教）、池下博紀（助教）

2020 年度教員：平島ユイ子（教授・専攻長）
吉永明史（助教））、豊嶋明子（助教）、池下博紀（助教）

1)平島ユイ子　ST,MA,PhD

担当科目：言語聴覚障害学概論・演習・特論、言語発達障害学
研究内容：難聴児/言語とコミュニケーション
著書論文：通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック（共著）、明治出版
学　　歴：学士：広島大学学校教育学部
修士：福岡大学大学院教育学研究科障害児教育専攻
博士：国際医療福祉大学大学院言語聴覚専攻
職　　歴：福岡市小学校教諭
国際医療福祉大学福岡保健医療学部言語聴覚学科
福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科 専攻長
資　　格：言語聴覚士、認定言語聴覚士（聴覚障害）
役 員 歴：日本教育オーディオロジー研究協議会　理事

2)吉永　明史　助教　ST、MS

担当科目：言語聴覚障害学、発声発語障害学
研究内容：呼吸、咳嗽と誤嚥性肺炎に関する研究
著書論文：脳血管障害患者における喉頭咳反射と誤嚥性肺炎の関係について-喉頭咳反射の強さ，潜在時間，回数に着目した検討-
学　　歴：長崎リハビリテーション学院　言語聴覚学科卒業
修士：国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻修了
博士：国際医療福祉大学大学院　在学中
職　　歴：誠愛リハビリテーション病院
柳川リハビリテーション学院　教員
福岡国際医療福祉学院視機能療法　教員
資　　格：言語聴覚士
役 員 歴：福岡言語聴覚士会理事・社会局長

3)豊嶋　明子　助教　ST、MS

担当科目：言語聴覚障害学概論・演習・特論、失語症・高次脳機能障害学
研究内容：構文の離開・産生能力、支援プログラムの研究　小児の統語機能発達
学　　歴：学士：同志社大学商学部卒業
修士：国際医療福祉大学大学院修士課程修了
博士：国際医療福祉大学大学院博士課程在学中
福岡国際医療福祉学院　言語聴覚科卒業
職　　歴：恵光会原病院、井野辺病院、福岡鳥飼病院
福岡国際医療福祉学院　教員
資　　格：言語聴覚士

4)池下　博紀　助教　ST,MS

担当科目：言語聴覚障害学概論・演習・特論、高次脳機能障害学
研究内容：急性期における失語症患者への評価
学　　歴：学士：九州保健福祉大学言語聴覚学科卒業
修士：国際医療福祉大学大学院　言語聴覚専攻修士課程修了

博士：国際医療福祉大学大学院　博士課程　在学中
職　　歴：吉備高原医療リハビリセンター
佐賀大学医学部付属病院
脳神経センター太田記念病院
福岡国際医療福祉大学
資　　格：言語聴覚士

(2) 研究活動（2019 年度）

1) 著書

・平島 ユイ子：オーディオロジーハンドブック-聴覚障害のある子どもたちの「きこえ」の補償と学習指導（共著）ジアース教育新社. 担当部分　四章　学童期の指導支援

・平島 ユイ子：セラピストのための概説リハビリテーション第 2 版（共著）文光堂　担当部分 9 章 教育リハビリテーション

2) 原著

・八田 徳高, 平島 ユイ子：軽度・中等度難聴児における補聴器装用に関連する要因(原著論文). 聴覚言語障害（0300-0338), 48(2):75-83,2019.

3)学会発表

・平島 ユイ子：自閉症を伴う難聴児のコミュニケーション改善にむけた訂正方略と情動認知の活用（2019）日本言語聴覚学会

・平島 ユイ子：小児の構音障害と支援日本音響学会(2019)

・平島 ユイ子：Factors in Understanding of Facial Emotions by Hearing Impaired Children with Borderline intellectual disabilities or Autism International Association of Logopedics and Phoniatrics) 31st IALP 18-22 Aug. 2019 Taiwan.

・吉永明史：加齢による呼吸機能低下が咳嗽機能に及ぼす影響日本言語聴覚士協会 2019

・吉永明史：加齢による随意咳嗽と咳反射の変化に関する調査日本音声言語医学会 2019

・豊嶋明子：兄弟全員が機能性構音障害を呈した症例から学んだこと　日本言語聴覚学会 2019

4) 研究費

・平島 ユイ子：自閉症を伴う難聴児のコミュニケーション改善に向けた訂正方略と情動認知の活用（平成 30～33 年・文科省基盤 C）

・平島 ユイ子：聴覚情報処理障害児(APD 児)への聴覚訓練プログラムの開発（分担）（平成 30～32 年 文科省基盤 C）

・平島 ユイ子：言語通級指導教室における発音指導を支援するシステムの研究開発（分担）（平成 28 年～31 年・文科省基盤 C）

(3)社会活動

1)役員歴

・平島 ユイ子：日本教育オーディオロジー研究協議会　理事

・吉永明史：福岡言語聴覚士会理事・社会局長

9. 大学・関連施設

(2020 年５月１日現在)

9.1　学校法人　高木学園

1)福岡国際医療福祉大学　理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科、言語聴覚専攻科
（〒814-0001 福岡市早良区百道浜 3-6-40　TEL:092-832-1200）

2)専門学校柳川リハビリテーション学院　理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科
（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 116　TEL: 0944-72-1001）

3)大川看護福祉専門学校　看護学科、介護福祉学科
（〒831-0016 福岡県大川市大字酒見 391-5　TEL: 0944-88-3433）

9.2 学校法人　国際医療福祉大学

1) 保健医療学部　理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科
（〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1　TEL：0287-24-3018）

2) 成田保健医療学部　理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科
（〒286-8686 成田市公津の杜 4-3TEL：0476-20-7701）

3) 小田原保健医療学部　理学療法学科、作業療法学科
（〒250-8588 小田原市城山 1-2-25　TEL 0465-21-0361）

4) 福岡保健医療学部　理学療法学科（〒831-8501 大川市榎津 137-1　TEL：0944-89-2000）

5)国際医療福祉大学病院（〒329-2763 栃木県那須塩原市井口 537-3　TEL：0287-37-2221）
西那須野町井口（大学から車で約 15 分）に，H10 年 7 月に開設，H14 年 2 月には新しい棟を増やし，産婦人科を含んだ総合病院として再スタートした．病床は 353 床である．25 年 3 月に栃木県では初めて手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Si」導入した．各診療科目とも最新の診療と専門スタッフが揃っている．

6)介護老人保健施設　マロニエ苑(〒329-2763 那須塩原市井口 533-4　TEL：0287-36-6622)
国際医療福祉病院の隣に H5 年に開所した，200 床の老人保健施設である．苑内には温泉をひいた大浴場があり，快適な環境と，最新の設備とともに，PT，OT，ST のスタッフによるきめ細やかなリハビリテーションを実施している．

7)にしなすの総合在宅ケアセンター（〒329-2763 那須塩原市井口 537-3　TEL：0287-39-3303）
国際医療福祉病院・マロニエ苑と隣接し，H1 年 21 月に開所した総合在宅ケアセンター．通所リハビリテーション・通所介護・にしなすのマロニエ訪問看護ステーション・ホームヘルパーステーションがある．マロニエ苑同様，天然温泉を利用した浴室・リフト浴槽等もあり，楽しみながら受けられる基本的な介護プログラムや機能的リハビリテーションを実施している．

8)国際医療福祉大学クリニック（〒324-0011 大田原市北金丸 2600-6　TEL：0287-24-1001）
大学敷地内にある病院で，健康管理センターと言語聴覚センターがあり，健康管理センターは学生の健康診断や健康相談，診療などを行っている．言語聴覚センターは，数多くの検査室・治療室を持ち，精密な聴覚機能検査機器や言語治療に使うマルチメディアシステムなどで，言語および聴覚に障害がある子供や成人の治療にあたっている．

9)国際医療福祉大学塩谷病院（〒329-2145　栃木県矢板市富田 77　TEL：0287-44-1155）
H21 年 4 月に厚生連塩谷総合病院から継承して，塩谷病院としてオープンした．病床は 240 床である．H23

年より回復期病棟を開設し365日体制のリハビリテーションを実施している.

10) しおや総合在宅ケアセンター（〒329-2145　栃木県矢板市富田77　TEL：0287-44-1155）
国際医療福祉大学塩谷病院に隣接し，栃木県北（塩谷郡市地域）の通所サービス，訪問サービスの拠点としてH26年4月に開設された総合在宅ケアセンターである.

11) 国際医療福祉大学熱海病院（〒413-0012 熱海市東海岸町13-1　TEL：0557-81-9171）
H14年7月に国立病院から承継し，新病院がH17年7月に開設した．病床は269床である.
リハビリテーション室からは海が望め，すばらしいオーシャンビューや熱海ならではの温泉がある．H24年8月に回復期リハビリテーションセンターを開設した.

12) 国際医療福祉大学三田病院　（〒108-8329 東京都港区三田1-4-3　TEL03-3451-8121）
H17年3月に東京専売病院から継承して，三田病院としてオープンした．乳腺センター，頭頸部，腫瘍センター，呼吸器センター，予防医学センターを開設し，新たな外来を開設した．病床数は291床である.

13) 国際医療福祉大学市川病院（〒272-0827 千葉県市川市国府台6-1-14　TEL：47-375-1111）
昭和41年，結核に対する化学療法研究所の附属病院として開設．今後は結核のみならず，肺ガンなどの呼吸器疾患全般を診療体制の柱とするとともにがん全般に渡る化学療法の研究にも取り組む．H19年2月に新病院が完成した．H29年9月化学療法研究所附属病院から市川病院に名称が変更になった.

9.3　社会福祉法人　邦友会
1) 国際医療福祉ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ（〒324-0011 大田原市北金丸2600-7　TEL：0287-20-5200）
国際医療福祉リハビリテーションセンターは大学の敷地内にあり，H12年4月に開設された．重度心身障害児施設であるなす療育園と身体障害者療護施設であるサポートハウス那須，那須デイサービスセンターから成る総合施設である．なす療育園と那須療護園はそれぞれ50床の施設である．なす療育園では外来リハビリテーション診療も行っており，現在栃木県北部地域の小児ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの中核となっている.

2) おおたわら総合在宅ケアセンター（〒324-0011 大田原市北金丸2600-6　　TEL：0287-20-2501）
おおたわら総合在宅ケアセンターは大学の敷地内に，H15年4月に開所した総合在宅ケアセンターである．通所リハビリテーション，通所介護，グループホームがある.

3) おおたわら風花苑（〒324-0011 大田原市北金丸2600-6　　TEL：0287-20-2230）
入所定員40名，短期入所定員30名の全室個室・ユニットケア型の特別養護老人ホームである.
各ユニットは7～10名の構成で，利用者同士のふれあいの場がもてるよう，団欒や簡単な調理，食事なども楽しむことができる居住環境を重視した空間を提供している.

4) 特別養護老人ホーム栃の実荘（〒329-2763 那須塩原市井口533-11　TEL：0287-37-1160）
国際医療福祉病院・マロニエ苑の隣に，H6に開所した77床の特別養護老人ホームである.
ホームヘルプサービス，デイサービス，ショートステイなど様々なサービスを提供している．H11には在宅介護センターが開設され，介護保険に関連したサービスを提供できる.

9.4　医療法人財団　順和会
1) 山王病院（〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-35　TEL：03-3402-3301）
東京の赤坂に立つ昭和12創立の歴史ある病院である．高度化・専門化する医療に対応し得るスタッフをそろえ，大学病院とも連携を取りながら最新の診療を行っている．都会型の病院であり，H12年11月に新病院が完成した．特に，リプロダクションセンター（不妊治療）が有名である.

8.5 医療法人社団高邦会

1)高木病院（〒831-0016 福岡県大川市酒見 141-211　TEL：0944-87-0001）

506 床の急性期病院．ICU，HCU を有する．医師やコメディカルと連携しチーム医療を行っている．脳血管疾患，神経難病，整形外科疾患，呼吸器疾患，心疾患，悪性新生物，小児など多岐にわたる疾病に対して理学療法を行っている．

2)柳川リハビリテーション病院（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 113-2　TEL：0944-72-0001）

平成 2 年に開設した，240 床のリハビリテーション専門病院である．回復期病棟は 120 床と近隣では最多の病床数を誇る．西日本屈指の面積（1，230 ㎡）を持つ広い訓練室を持ち，約 90 名のリハビリテーションスタッフが在籍している．医師，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士，看護師，ソーシャルワーカーなどのチーム連携により，365 日質の高いリハビリテーションを提供している．病院内には通所リハビリテーションを併設し，生活期のリハビリテーションを支援している．

3) みずま高邦会病院(〒830-0416 福岡県三潴郡大木町大字八町牟田 1621-1　TEL：0944-87-8880)

当院は平成 12 年に開設された 120 床の療養病床を持つ病院であり，病院内に，通所リハビリテーションセンター及び居宅介護支援事業所を併設している．治療・ケアのための設備，休息のための安らぎのある病室，語らいながら食事ができる空間などを機能的に配置し，病気の治療と生活リハビリテーションを実践できる環境を整え，自宅で療養されている高齢者及びそのご家族に対する在宅支援の機能も備えている．

4)福岡山王病院（〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 3-6-45　TEL：092-832-3061）

福岡国際医療福祉学院，総合ケアセンターももちに隣接し，平成 21 年 5 月に開院した 199 床完全個室の病院である．通所リハビリテーションも併設している．

5) 福岡中央病院（〒810-0022 福岡県福岡市中央区薬院 2-6-11　TEL：092-741-0300）

1926 年に熊本逓信病院福岡支所として、福岡市で診療を開始、1951 年に福岡逓信病院として現在地に移転した。2019 年 4 月、福岡逓信病院は医療法人社団 高邦会 福岡中央病院へと変わりました。福岡市の中心に位置し、他の医療機関との連携も密であったこれまでに加えて、あらゆる医療福祉のニーズに最高レベルで応える複合体を目指す国際医療福祉大学・高邦会グループの充実した医療・福祉施設と連携している。

6)介護老人保健施設　水郷苑（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 269　TEL：0944-74-4001）

H5 年に開設した，入所 100 床の老人保健施設である．苑内には通所リハビリテーションを併設している．柳川の温和な風土を背景に，天然温泉を利用した浴室や，リフト設備等安全に配慮した設備の充実により，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士の他，他職種連携のもと，生活リハビリを基調にきめ細やかな ADL アプローチや活動を支援している．

7)有明クリニック（〒831-0016 福岡県大川市酒見 215-1 おおかわ交流プラザ 3 階　TEL：0944-85-8081）

平成 27 年 5 月，「在宅療養支援診療所有明クリニックと通所リハビリテーション」を開設．有明クリニックでは，通院が困難な方に対して訪問診療を行う．併設する通所リハビリテーションでは，トレーニングマシンを使ったパワーリハビリテーション，ご利用者の日常生活機能の改善をより計画的に支援していく生活行為向上リハビリテーション，認知症予防や記憶力改善を図る脳活性化リハビリテーションを柱に，専門職による充実した個別・集団リハビリテーションを行う．また，多様な入浴設備を導入し，自宅での入浴が困難な方でも安心して入浴できるサービスを提供する．

8)ケアサポートハウス大川（〒831-0022 福岡県大川市榎津 160-1　TEL：0944-87-0018）

H12 年，高木病院の南側に開設された総合在宅ケアセンターで以下の施設を配置している．グループホーム・高齢者向け賃貸アパート・通所介護・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・訪問介護ステーションがある．

「利用者が住み慣れた地域社会において，その人らしい生活ができるよう，個性に応じた適切な援助を

行う.」を運営理念に，関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している.

9)有明総合ケアセンター（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 277-2　TEL：0944-75-1670）
水郷苑の南側に H12 年に開設した総合在宅ケアセンター．居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション・通所介護がある.
「利用者が住み慣れた地域社会において，その人らしい生活ができるよう，個性に応じた適切な援助を行う.」を運営理念に，関連他事業所とともに生活期のリハビリテーションを支援している.

10)総合ケアセンターももち（〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道 3-6-40　TEL：092-831-1901）
福岡山王病院，福岡国際医療福祉学院と同一敷地内に H20 年に開設した，通所リハビリテーション，訪問看護ステーション,居宅介護支援の,在宅介護を支援する 3 事業所を併せ持つ複合福祉施設である．グループ内だけでなく，福岡市内の病院，施設などと連携し，利用者が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるように，利用者の個性にあったサービスを提供している.

9.6 高邦福祉会
1)社会福祉法人　柳川療育センター（〒832-0813 福岡県柳川市三橋町棚町 218-1　TEL：0944-73-0039）
平成 28 年 5 月，入所を 110 床，短期入所を 10 床へ増床し，移転オープンした重症心身障害児（者）施設である．移転後の敷地内には，児童発達支援センター「あいりす」と国際医療福祉大学神経発達症研究センターが併設され，総合的な医療・福祉・教育施設へと規模が拡大した．現在，リハビリテーション室には理学療法士，作業療法士，言語聴覚士が 34 名勤務し，入所・外来利用者に対して，質の高い療育を提供している.

2)社会福祉法人　高邦福祉会　デイサービスセンター　りはらいふ
（〒832-0058 福岡県柳川市上宮永町 284 番地 2　らいふサポートセンター柳川 1 階
TEL：0944-75-1130）
平成 28 年 9 月，機能訓練特化型デイサービスとして開設．午前 3 時間，午後 2 時間とそれぞれ短時間利用となっている．利用者の自立に向け，運動機能の訓練（マシン等を利用した有酸素運動）を中心としたサービスを提供.「活動」や「参加」を目標に，楽しく体を動かすことで運動の常習化を図り，健康・自立を促している.

ザ・フクオカ　2020（FIUHW　情報誌：自己点検・評価資料集）
2020年6月1日　2020　発行　1号

福岡国際医療福祉大学
自己点検評価委員会
福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40
TEL：092-832-1200　FAX：092-832-1167